

Ⅱ 試験研究の推進

1 研究活動の概要

県は、平成31年度から令和10年度までの10年間の政策の基本方向となる「いわて県民計画(2019～2028)」を平成31年2月に策定した。

この「いわて県民計画(2019～2028)」に基づき、農林水産部は、農林水産分野の長期的な技術開発の方針として「『農林水産技術立県いわて』技術開発基本方針」(以下「技術開発基本方針」という。)を策定した(令和2年3月)。

農業研究センターは、技術開発基本方針に基づき、令和10年度まで取り組む「岩手県農業研究センター試験研究推進計画」を策定した(令和6年3月、研究期間は令和10年度までとして策定)。

技術開発基本方針の5つの農業技術開発の方向に即し、15分野43の取組により、安全・安心で高品質な農畜産物を効率的かつ安定的に生産するために高度な技術の開発を進め、「農林水産技術立県いわて」の確立に取り組んでいる。

令和7年度の試験研究にあたっては、以下の3つの基本方針に沿って、新規12、継続97、合計109(小課題数ベース、分野を重複する小課題はカウント)の研究課題に取り組んだ。

1 県民視点の試験研究等業務の推進

- ・所得向上につながる普及性の高い技術開発
- ・産地づくりをリードする革新的な技術開発など

2 スピーディーな課題解決

- ・課題設定から普及定着まで、行政、普及、農業者と連携し一体的に推進
- ・連携強化による効率的・効果的かつ戦略的な技術開発

3 業務の「見える化」の推進

- ・知的財産の実用化促進
- ・研究成果・業務内容のPR及び視察等の受入れ

県独自予算の研究に加え、競争的資金等の活用や産学官連携による共同研究を推進し、農産・園芸部門で32課題(うち新規4課題)、畜産部門で6課題(うち新規1課題)、合計38課題の共同研究に取り組んだ。

知的財産では、今年度の登録は無かった。

本年度の試験研究から得られた成果は、内部及び外部(試験研究推進アドバイザー・生産者等)の評価を経て、62の研究成果(普及区分3、指導区分31、行政区分14、研究区分14)にとりまとめた。

機関評価委員会(視察・懇談会)を9月24日に本部を会場として開催した。当センターに対する理解を深めていただき、今後における円滑な機関評価の実施につなげることを目的に当センターの研究実施状況等について視察、意見交換を行った。

2 トピックス

(1) 特許・品種登録出願状況

区分	出願・登録内容	担当
種苗登録 出願申請中	いちご ゆいか(盛岡38号) 【出願番号:38283 出願日:2025/11/11】 ・商品果率が高く、果実硬度が高いため輸送性に優れるいちご品種	園芸技術研究部 南部園芸研究室
種苗登録 出願申請中	水稻 白銀のひかり(岩手141号) 【出願番号:37717 出願日:2024/11/7】 ・良食味で収量及び栽培特性に優れる早生粳水稻品種	生産基盤研究部 作物育種研究室
種苗登録 出願申請中	水稻 イワテ144号(岩手144号) 【出願番号:37962 出願日:2025/4/1】 ・良食味で収量及び栽培特性に優れる低アミロース早生粳水稻品種	生産基盤研究部 作物育種研究室
種苗登録 申請中	りんご 岩手 15 号 【出願番号:37858 出願日:2025/1/28 出願公表日:2025/5/14】 ・貯蔵性が優れる大玉で着色良好な赤色系品種	園芸技術研究部 果樹研究室
種苗(品種) 登録	りんどう いわて EB-3 号 【登録番号:31401 登録日:2025/11/7】 ・7月下旬～8月上旬開花の切り花向け青色りんどうF ₁ 品種	園芸技術研究部 花き研究室
種苗(品種) 登録	りんどう Bzc-1 mut1 【登録番号:31404 登録日:2025/11/7】 ・鉢花向け濃桃色りんどう品種	園芸技術研究部 花き研究室
種苗登録 出願申請中	あわ「岩手糯 11 号」(アワ岩手糯 11 号) 【出願番号:37215 出願日:2024/1/9】 (令和7年度 現地調査実施)	県北農業研究所 作物研究室

(2) 表彰等受賞状況

ア 令和7年度農林水産部長表彰

園芸技術研究部果樹研究室 河田道子上席専門研究員他4名(猫塚修一、羽田厚、中村太紀、西田絵梨香)は、長年に渡ってりんご農家に甚大な被害を与えていたりんご急性衰弱症について、これまで病原菌による病害であるか、栽培環境等のストレスによる生理障害であるか、その発生原因が把握できていなかった。今般、初めて病原菌が発生原因であることを突き止め、感染経路を明らかにし、発生を抑制する防除技術の開発につなげ、もって、県内だけでなく全国りんご農家の安定的な生産に大きく貢献したとして表彰された。また、畜産研究所の児玉英樹次長と池原遊人専門研究員は、県立農業大学校における家畜体内受精卵移植師養成体制の確立と運営に貢献したとして表彰された(令和7年10月31日)。

農業研究センターが、寒冷な気候の岩手県北地域を普及想定地域とする県ブランド米の育成がこれまで進まなかったところ、食味特性、耐倒伏性及び耐冷性等の優れた栽培特性をもち県ブランド米として初めて県北地域や高標高地での直播栽培への適用が期待できる「白銀のひかり」を開発するとともに、当該品種の生産・販売拡大に向けて、県北地域で初となる栽培研究会を設立し、産地一体となって取組みを進めたところ、本格デビュー1年目にして10アールあたりの収益が銀河のしずく等の県ブランド米と同等以上となる成果をあげたものとして、機関表彰を受けた(令和8年3月26日)。

イ 令和6年度畜産研究功労者表彰及び令和6年度優秀畜産技術者表彰

畜産研究所家畜飼料研究室の多田和幸首席専門研究員県室長(当時)は、豊富な知識と経験を活かした指導力により、本県の自給飼料の安定確保に貢献したとして畜産研究功労者表彰を受賞した。また、家畜育種研究室の山形広輔主査専門研究員は、肉用牛のDNA研究に精通し、牛肉の美味しさと関連がある一価不飽和脂肪酸の推定育種価とゲノム育種価の相関は高く、改良に有用であることを明らかにしたとして優秀畜産技術者表彰を受賞した(令和7年6月19日)。

ウ 農林水産部政策提案型調査研究コンテスト「Wild Cup 2025」

農業研究センターからは次の3課題が発表された。「夏ノ暑サニモ負けない日本一の夏秋ピーマン産地を目指して！～夏秋産地で伸ばすべき“強み”、あると思います！～」(発表者:園芸技術研究部 主任専門研究員 松橋伊織)、「転炉スラグを使って水稻浸種の労力を減らそう！～病害の抑制も？～」(発表者:生産環境研究部 技師 八桁直輝)、「いわての“JIDORI”「南部かしわ」～もっと食べたい食べさせたい！～」(発表者:畜産研究所 専門研究員 柿崎瑠利香)。

このうち、「夏ノ暑サニモ負けない日本一の夏秋ピーマン産地を目指して！～夏秋産地で伸ばすべき“強み”、あると思います！～」が優勝(副知事賞)を、「転炉スラグを使って水稻浸種の労力を減らそう！～病害の抑制も？～」が岩手県農業協同組合中央会会長賞をそれぞれ受賞した。

エ 令和7年度岩手県職員事績顕著者表彰

受賞者なし

オ 内部表彰

有益な研究・発明を行い優秀な成果をあげた職員や、事務の運営改善・簡素効率化に貢献した職員等に対し、農業研究センター所長表彰、畜産研究所長表彰及び県北農業研究所長表彰を下記のとおり行った。

表彰名称	件数	表彰者数	表彰年月日
令和7年度第1回農業研究センター所長表彰	4	9	令和7年10月28日
令和7年度第2回農業研究センター所長表彰	15	22	令和8年3月9日
令和7年度第1回農業研究センター畜産研究所長表彰	1	11	令和7年10月29日
令和7年度第2回農業研究センター畜産研究所長表彰	5	31	令和8年3月9日
令和7年度農業研究センター県北農業研究所長表彰	8	11	令和8年3月16日

3 研究室・課の動き

(1) 企画管理部

研究企画室

農業試験研究のアクションプランである「農業研究センター試験研究推進計画」に基づき、研究員の円滑な試験研究の支援、生産者や県民に開かれた農業研究センターを目指し、以下の事項について重点的に取り組んだ。

<顧客視点の試験研究の推進>

顧客のニーズに対応した試験研究を推進するため、農業普及技術課農業革新支援担当との作物別連携会議や現地検討会などを通じて顧客である農業者等のニーズの把握に努めた。

試験研究推進に際しては、研究課題の収集や試験研究推進アドバイザーを研究会議等に参集し、顧客目線での助言を得ながら課題設定や成果の取りまとめを行った。

センター運営や試験研究推進に対する外部評価を得るため設置した機関評価検討会を9月24日に畜産研究所を会場として開催し、当センターに対する理解を深めていただき、今後における円滑な機関評価の実施につなげることを目的に当センターの研究実施状況等について説明、意見交換を行った。

競争的研究資金等への応募のため、資金情報の提供や研究計画作成への助言を行うとともに、農業改良普及センターや県庁関係課との事前調整を行った。

<アウトカムを意識した研究成果の普及と情報発信>

研究センターの業務内容や研究成果の周知を図るため、マスコミへのプレスリリースやホームページにより積極的な情報発信を行なった。マスコミでの報道件数は、43件(前年37件)であった。ホームページは、年間203ページ(前年174ページ)の更新を行い、研究活動の現在(いま)を分かり易く伝える「らぼ・れたあ」をメールやホームページにより年間85件(前年47件)発信した。さらに、X(旧Twitter)による情報発信では、ホームページの更新情報を中心にツイート数359回、フォロワー増加数23名、同じくFacebookでは投稿数218回、フォロワー増加数126名であった。

<専門知識と技術を有する人材育成 ～ 新たに若手研究員を対象とした所内コンペを開催>

研究員の資質向上については、「農業研究センター研究員等育成方針」(令和4年策定)に基づき、専門性の高い人材の育成に向け、各種研修等への参加を誘導した。また、研究員の自由な発案に基づく研究課題の設定を促すため、若手研究員を対象とした所内コンペティションを4月に開催し、3課題を採択・予算配分したほか、センター内の学位取得者や論文査読経験のある職員9名を若手研究員育成サポーターとして設置し、若手研究員に対して論文投稿や学会発表を始めとした研究業務全般のアドバイスをを行うなど、重点的に育成を図った。

なお、各分野の中核を担う研究員の計画的な育成をさらに効果的・効率的に進めるため、職員個々が研修計画を策定し実践するとともに、発展段階に応じた集合研修を企画・実施している。

予算管理面では、「不正防止計画」に基づいたモニタリングと内部監査の実施により適正な経理事務を支援した。また、研究備品の更新計画をローリングした。

農業経営研究室

「農業研究センター試験研究推進計画」に基づき、収益力の高い農業経営体の育成等に向け、農業構造・経営管理分野の研究について、以下のとおり取り組んだ。

<収益性の高い農業経営モデルの提示>

「岩手県における野菜作経営モデルの構築と成立条件の解明」では、県内の先進的な野菜専作経営体の実態調査から、「施設野菜専作経営体の経営発展過程における経営者行動の特徴」及び「施設野菜専作経営体の経営者行動の特徴からみた経営発展のポイントと支援策」を研究成果として提示した。

「大規模水田作経営の成立条件の解明」では、2015 及び 2020 農林業センサスのデータから、「農林業センサスから見る岩手県の水田作における農地流動化の特徴」を研究成果として提示した。

「スマート農業技術の導入・定着プロセスと利活用方策の提示」では、県内の先進事例を参考に「施設園芸産地における環境モニタリングデータ活用支援の取組手順書」を研究成果として提示した。

<経営意思決定支援情報の提供>

「経営環境の変化に対応した農業技術体系データの提示」では、他研究室や農業革新支援担当等と連携し、「生産技術体系データ(2025年版)」及び「水稻乾田直播栽培(ブラウ耕鎮圧体系)の生産技術体系データ」を研究成果として提示した。

<本県の農業構造の現状及び動向の提示>

2025農林業センサスが令和7年度末公表予定であることから、本県農業動向分析及び担い手及び農地利用の将来予測等の分析内容について県庁関係各課と検討した。

(2) 生産基盤研究部

水田利用研究室

水稻・畑作物(麦類・大豆)の奨励品種決定調査、麦・大豆の作柄解析、麦・大豆の原種・原原種生産、農村整備分野の地下かんがいシステムの実証試験等に取り組んでいる。

<水稻品種>

水稻の奨励品種決定試験では、本試験においてうち3系統を供試し、現地試験では粳を13か所で検討した。

水稻作用除草剤第2次適用性試験では、新たに開発された水稻の除草剤の効果の確認と雑草防除体系の確立のための試験を行った。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ 令和6年度における水稻奨励品種決定基本試験の本試験・現地試験結果(行政)

<麦類>

麦類奨励品種決定調査では、小麦4系統を供試した。

ナンブコムギに縮萎縮病抵抗性を付与した系統の育成のため、場内にて東北農業研究センターとの共同研究で、縮萎縮病に強い個体の選抜に取り組んだ。

縮萎縮病に強く収量性が高い日本麺用品種「ナンブキラリ」について、播種量及び追肥時期・量試験に取り組んだ。

麦類耐寒雪性検定試験では、現地ほ場(一戸町奥中山)において、育成地より配布を受けた106系統の雪腐病に対する耐性調査に取り組んだ。

<大豆>

大豆奨励品種決定調査では、普通大豆3系統を供試した。

大粒でダイズシストセンチュウに強い新品種「リョウユウ」について、播種時期及び栽植密度の試験に県北農業研究所作物研究室と連携して取り組んだ。

<種子生産>

小麦は原種4品種を13.9t、原原種を0.6t生産した。大豆は原種4品種を5.9t、原原種2品種を0.06t生産した。

<地下かんがいシステム・ほ場水管理システムの利用技術>

地下かんがいの利用技術では、大豆栽培での営農実証を行うとともに、地下かんがいシステムによる暗渠管の清掃効果を検証した。また、暗渠疎水材(籾殻)の経年劣化の状況についても現地調査を行った。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ 岩手県的小麦栽培における越冬前後の踏圧時期及び回数の違いが生育に及ぼす影響(指導)
- ・ 暗渠排水の維持管理に活用可能なRTK-GNSSデータの有効性(行政)

生産システム研究室

令和7年度は、令和6年に引き続きの少雨による渇水で用水が不足する中、一部試験の中止やエンジンポンプによる用水のくみ上げなどの対応を取りながら、水田農業の担い手である大規模経営体や集落営農等の意欲と能力のある農業経営体を支援し、収益性の向上を図るため、スマート農業技術の実証、水稻の作柄解析や優良な水稻原種・原原種の生

産・供給に取り組んだ。

＜水稻栽培＞

夏季高温などの気象変動に対応し現場ニーズにこたえる、水稻の品質・食味の維持、向上を図るための技術開発や、作況調査及び現地生育データなど総合的な解析、大規模化、省力化に対応する直播技術の更なる普及拡大に向けた技術開発に取り組み、今年度は以下の3つの研究成果を公表・掲示した。

- ・ 令和7年岩手県産水稻の生育経過の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析(指導)
- ・ 「銀河のしずく」の乾田直播栽培可能地域(指導)
- ・ 令和7年度における水稻晩植栽培による生育・収量への影響(研究)

＜水稻種子生産＞

原原種は、うるち5品種、もち1品種について約368kg、を生産した。また、原種は、うるち8品種、もち1品種について約20.7tを生産した。

＜スマート農業・リモートセンシング技術＞

省力的な栽培技術や導入しやすいスマート農業技術、リモートセンシング技術を活用した水稻生育診断技術の開発や、高効率な農業機械の開発に係る基礎的研究に取り組み、今年度は以下の3つの研究成果を公表・掲示した。

- ・ 高水分状態の水稻収穫に高い適応性を備えた高湿材適応コンバイン(普及)
- ・ 大豆栽培への自動操舵農機及び無人航空機(ドローン)の導入効果(指導)
- ・ ほ場でも容易に実施できる無人航空機(ドローン)を利用した水稻成熟期推定技術(指導)

作物育種研究室

＜水稻育種＞

いわてブランド米品種開発推進事業に取り組み、生産力検定本試験から、生育・収量調査および各種特性検定試験の結果に基づき、「岩手164号」(「いわてっこ」熟期の良質・良食味系統)、「岩手165号」(「銀河のしずく」に高温登熟耐性遺伝子を導入した系統)、「岩手166号」(「銀河のしずく」に晩生化及び高温登熟耐性遺伝子を導入した系統)の3系統、また、「イノベーション創出強化研究推進事業」を活用した研究成果として、「ひとめぼれ」の有用遺伝子集積系統「岩宮1号」「岩宮2号」を育成した。

隣接する(公財)岩手生物工学研究センターと連携してゲノム解析技術と独自の遺伝子資源の活用により、急務となっている気象条件に左右されにくく、環境に配慮した栽培特性を持つ品種、中食・外食ニーズに対応した品種等の新たな価値を持つ育種素材の充実化に取り組んだ。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ 令和8年度水稻奨励品種決定予備試験に新たに供試する「岩手164号」、「岩手165号」、「岩手166号」(行政)
- ・ ゲノム育種により育成した「ひとめぼれ」の有用遺伝子集積系統(行政)

＜精緻なゲノム改良による低コスト生産可能な超多収良食味水稻品種の育成＞

(公財)岩手生物工学研究センターとの連携のもと、「ひとめぼれ」の栽培特性(耐倒伏性、耐病性及び高温登熟耐性等)をゲノム育種で改良し、低コスト生産可能な安定した超多収良食味水稻品種の開発を目指し、本年は生産力検定試験を青森県・宮城県・福島県と協力しながら効率的な系統育成に取り組んだ。また、奥州市江刺2カ所に現地試験ほ場を設置し、現地栽培での知見を得た。事業の研究成果として「ひとめぼれ」の有用遺伝子集積系統「岩宮1号」「岩宮2号」を開発した。

(3) 園芸技術研究部

果樹研究室

りんごを主体に、ぶどう、もも、西洋なし、おうとう、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。特に、早生から晩生までを網羅するオリジナルりんご品種の開発を掲げ、その中でも9月下旬～10月上旬に収穫できる優良中生品種の開発を重点課題としている。

また、温暖化によるリスクの解消、軽減を図るため、凍霜害、裂果等のリスク対策の開発に努めると共に、果樹の早期成園化や管理作業の省力化につながる栽培技術の開発に向けた課題を実施している。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・りんご「雪いわて」の収穫適期の目安(普及)
- ・りんご園地におけるロボット草刈機導入による草生管理の省力効果及び効果的な使用方法(指導)
- ・ぶどう「シャインマスカット」の花穂整形時における上部枝梗利用方法と省力効果(指導)
- ・ぶどう「シャインマスカット」の上部枝梗利用時は下向きの花穂を選択することで果房管理作業を省力化できる(指導)
- ・管理作業の省力化及び大玉生産が可能なブルーベリーの交互結実剪定法(指導)

野菜研究室

「いわて農業生産強化ビジョン」及び「岩手県野菜生産振興計画」を踏まえ、環境制御技術等を活用した施設野菜の単収向上や品質向上技術の開発、水田等を活用した土地利用型野菜の生産拡大に寄与する栽培技術の開発に係る機関・団体と連携して取り組んだ。

環境制御技術の開発については、県内の民間企業が開発した小型光合成促進機を用いた炭酸ガス局所施用による「低コスト環境制御技術」の普及拡大に向け、きゅうりにおける技術確立に取り組むとともに、トマトの出荷量予測ツールの開発に取り組んだ。

ピーマン安定生産技術の開発については、県内産地で問題となっているピーマンの尻腐果や青枯病の発生低減技術の開発に取り組むとともに、大規模経営での導入を想定した省力的な整枝・誘引方法の開発に取り組んだ。

土地利用型野菜の安定生産技術の開発については、オープンイノベーション研究・実用化推進事業において「国産タマネギの安定供給に向けた持続可能なタマネギ腐敗性病害防除構築」に取り組むとともに、食料安全保障強化に向けた革新的新品種開発プロジェクトによる「加工歩留まりの高いF1タマネギ品種の開発」において、東北地域に適する縦長性タマネギの品種登録を目指した研究開発に取り組んだ。

また、収益性の高い新たな野菜産地の創造に向けて導入が進みつつあるブロッコリーについて、本県における安定生産技術の確立に向け、品種特性等の把握に係る評価を行った。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・夏秋どりトマトの短期収量予測技術（指導）
- ・きゅうりのハウス無加温作型における炭酸ガス局所施用ダクトの設置方法（指導）
- ・ブロッコリー早春まき作型における有望品種の適応性（指導）
- ・ブロッコリー夏まき作型における有望品種の適応性（指導）

花き研究室

花きは、日本一の生産量を誇りんどうに重点をおき、新品種の育成、種苗の安定生産・供給及び安定生産技術の開発に取り組んだ。

新品種の育成について、切り花向け品種は8月盆および9月彼岸の需要期を中心に切れ目ない出荷を可能とする青色系品種のラインナップの充実や、作期拡大を目指した既存品種より最も早く開花する品種の開発など、複数品種の育成に取り組んだ。今年度は切り花F₁品種「いわてEB-5号」を品種登録出願した。一方で品質が低下している既存品種を花色、花型、草姿などの品質が優れた品種に置き換えていくため、本年度も継続して有望なF₁系統の特性検定を実施した。鉢花向け品種は、本センター初となる「岩手県育成鉢花りんどう有望系統評価会」を開催し、JA全農いわて、JA、生産者及び県関係機関より幅広い評価をいただいた。その結果を反映させて、令和元年度に成果公表した新奇性の高い青色系八重咲き品種「いわて八重の輝きブルー」に続く、八重咲きの桃色系や白色系などの有望系統4系統を選抜した。

種苗の安定生産・供給について、これまでに育成した親系統の維持等に取り組んだ。今年度は、(公社)農産物改良種苗センターへの原種苗として、種子系親系統9系統並びに培養系親系統1系統を計画どおり供給するとともに、採種は場の管理や採種技術等について指導を行った。

栽培技術試験について、育成品種の生態的特性や株養成技術のほか、特許を取得した「千鳥疎植栽培」の普及に向け、早生品種「いわてEB-3号」での技術適応性について確認した。

また、昨年度、オープンイノベーション研究・実用化推進事業に採択された「リンドウの難防除病害対策を革新する新品種開発」について、岩手生物工学研究センター等共同研究機関と連携しながら、全国初となるCMV抵抗性を有する可能性が高い切り花F₁品種「いわてMB-4号」を選抜した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ 令和7年度りんどう奨励品種決定試験結果(行政)
- ・ 令和8年度りんどう奨励品種決定試験(切り花)に新たに供試する系統(行政)
- ・ 令和8年度りんどう奨励品種決定試験(鉢花)に新たに供試する系統(行政)

南部園芸研究室

陸前高田市において沿岸地域の夏季冷涼・冬季温暖な気象特性を活かした園芸産地の育成と、東日本大震災津波(H23.3.11)からの農業復興支援の技術拠点として、地域に密着した研究と技術指導を実施した。

地域特性を活かしたいちごに研究を重点化し、地域適応性の高い系統の選定や栽培特性の評価、品種の収量ポテンシャルを高めるための栽培技術等の開発を行ったほか、県内のいちご産地、新たにいちご生産を始めようとする者、県が共同開発したいちご閉鎖型高設栽培システムの導入を検討する者等に対する技術相談に応じた。

加えて、気仙地域3市町、JA、農業改良普及センター等の関係機関と連携した気仙地方の園芸振興にかかる取組や復興の取組で、新たにいちご経営を開始した陸前高田市大規模園芸施設(米崎)へ対し普及と連携して指導を行った。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ 四季成り性いちご品種「なつあかり」の電照用LEDによる白熱電球代替技術の検証(研究)

(4) 生産環境研究部

土壌肥料研究室

効率的で環境負荷を軽減する施肥管理技術の開発、有機物及び未利用資源を有効活用するための技術開発、高品質な農産物の安定生産・供給のための肥培管理技術の確立を柱とした研究課題に取り組んだ。

昭和54年度から、5年を1巡として、県内の水田と畑地の定点圃場の土壌調査と施肥管理等のアンケート調査を継続しており、令和7年度は10巡目の調査2年目として県中北部39地点の調査を実施した。

定点調査と併せて、県内耕地土壌の貯留炭素量を把握する全国調査を平成20年度から、県内各地の地力を明らかにし国内資源の肥料利用の効率化に役立てる全国一斉の地力調査を令和6年度から継続してきた。

センター開所当時から有機物連用試験と水稻作況試験の結果を解析し、近年の気象変動の傾向と気象変動が水稻の生育や収量等に及ぼす影響、気象変動下での有機物施用効果を解析し、学会で発表するとともに、指導区分の研究成果として公表した。

水稻栽培において、基肥の施肥から入水までの期間が15日以上となっている事例があることから、県内で広く普及している基肥一発肥料を施肥した後の畑期間と水稻の生育・収量との関係を整理し指導区分の研究成果として公表した。

イノベーション創出強化研究推進事業の共同研究に参画して取り組んできた「有機質資材の肥効見える化アプリ」を活用した減化学肥料栽培技術の実証結果を土壌肥料学会で発表するとともに指導区分の成果として公表した。また、県内で流通する代表的な家畜ふん堆肥の肥効特性を整理し、「有機質資材の肥効見える化アプリ」での肥効予測に必要なADSONを堆肥の全窒素量から推定する目安を設定して指導区分の成果として公表した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ 気象変動下における水稻の生産性と有機物施用効果(指導)
- ・ 基肥一発施肥体系における施肥から入水までの畑期間が水稻の生育・収量、玄米品質に及ぼす影響(指導)
- ・ 「有機質資材の肥効見える化アプリ」を活用した露地野菜の減化学肥料栽培技術(指導)
- ・ 露地野菜の減化学肥料栽培に向けた岩手県内に流通する家畜ふん堆肥の窒素肥効特性と全窒素によるADSONの推定(指導)

病理昆虫研究室

持続性が高く安定性のある農業生産を目指した病虫害制御技術確立するため、環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病虫害防除技術、生物的防除など環境にやさしい病虫害防除技術及び病虫害総合管理技術(IPM)の開発に取り組んだほか、本県の病虫害防除指導の技術資料である「岩手県農作物病虫害雑草防除に関する技術資料」の原案作成や、これらの基礎資料となる新農薬の効果検定等にも取り組んでいる。

令和7年度は、斑点米カメムシ類の現地・場内での畦畔管理体系試験、施設きゅうりでの主要害虫に対する総合防除技術の確立、リンゴ褐斑病及び黒星病を対象とした春季の防除体系の再構築、ロボット草刈機を用いた下草管理とハダ

ニ類及びカブリダニ類の発生に及ぼす影響調査、ダイズ黒根腐れ病の発生状況調査等を実施した。

また、国の委託プロジェクト研究による省力的IPMを実現する病虫害予報技術の開発、接触伝搬性ウイルスに対する月桃資材の利用法の確立、ビール酒造組合の委託事業としてホップの新規殺虫剤の登録推進に係る防除試験等を実施した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・土着天敵の保護を目的としりんご園の下草高刈管理におけるロボット草刈機の適用性及び樹冠下への除草剤使用について(指導)
- ・県内主要りんご産地におけるナミハダニの薬剤感受性実態(指導)
- ・りんどうにおけるTPN水和剤散布時の展着剤加用による葉斑軽減効果(指導)
- ・黒色のみを利用した粘着トラップに対するトマトキバガ成虫の誘引性質(研究)

(5) 病虫害防除部

病虫害防除課

<病虫害発生予察>

水稻、麦類、大豆、りんご、きゅうり、キャベツ、ねぎ、りんどうを対象として発生予察等の調査を行い、定期情報7回、注意報8回、発生速報16回を発行した。これらの情報については、印刷物のほか、メーリングリストによる配信、いわてアグリベンチャーネットへの掲載、マスコミ活用等により、関係機関・団体、共同防除組織等に提供した。

情報の種類		発行回数	内 容
発生予察情報	定 期 情 報	7	3～10月
	注 意 報	8 (前年比6増)	水稻(2回): 斑点米カメムシ類2 りんご(4回): 果樹カメムシ類2、褐斑病、ハダニ類 ねぎ(1回): ネギハモグリバエ・ネギアザミウマ アブラナ科野菜(1回): コナガ
	警 報	0	—
	特 殊 報	0	—
病虫害発生速報	—	16 (前年比1減)	・水稻(4回): 細菌病類1(育苗期)、いもち病2 斑点米カメムシ類1 ・小麦(1回): 赤かび病 ・りんご(4回): 黒星病、キンモンホソガ、果樹カメムシ類、褐斑病 ・トマト・ミニトマト(2回): トマトキバガ2 ・ねぎ(1回): シロイチモジヨトウ ・りんどう(2回): リンドウホソハマキ、花腐菌核病 ・野菜・花き(2回): オオタバコガ2

<病虫害防除指導>

本県の病虫害等の発生実態に応じた効果的・効率的な総合防除の実施を推進するため、関係機関・団体と緊密な連携をとりながら病虫害防除指導に取り組んだ。今年度の実績は、病虫害防除実績検討会を開催して主要病虫害の発生要因解析と次年度の防除対策について関係機関・団体と共有し、今後の地域防除体制の資とした。

水稻の病虫害防除指導においては、各地方の病虫害防除協議会、JA稲作部会等が中心となり、病虫害防除所が発行する発生予察情報を活用した防除指導が実施された。現地調査では、斑点米カメムシ類が早期に発生したことに加え、高温気象の影響で多発することが懸念されたことから、5/15に速報を、7/15及び7/28には注意報を発表して防除の徹底を呼びかけた。また、巡回調査地点の農家57件の防除実績等を収集し、発生要因解析を行い、次年度以降の防除指導の資とした。

果樹では、6月上旬に多数のチャバネアオカメムシがフェロモントラップに誘殺され、樹園地にもチャバネアオカメムシやクサギカメムシ等の果樹カメムシ類が数多く飛来したことから、6/12に注意報を発表した。7月の現地調査でも果樹カメムシ類が多数確認されたことから、7/18に速報を、7/28に注意報を発表して防除を呼びかけた。また、りんごでは県南部を中心に褐斑病が多いことから7/15に注意報を、7月後半にはハダニ類が多発したため7/31に注意報をそれぞれ発表した。りんごの防除実績は、県内75件の共同防除組合等から収集し、次年度の防除計画の改善に資した。

野菜については、飛来性害虫であるコナガのフェロモントラップへの誘殺数が4月中旬から急増し、キャベツへの産卵も早期に見られたため、5/16にアブラナ科作物で注意報を発表した。ねぎでは、6月下旬の調査でネギハモグリバエとネギアザミウマが広く見られたことから6/27に注意報を発表したほか、9月にはシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が急増したため、10/1に速報を発表して防除を呼びかけた。

野菜・花き共通の害虫であるオオタバコガは、フェロモントラップへの誘殺数が6月中旬以降に増加し、7月下旬調査できゅうり等の被害も確認されたことから、7/4と7/29に速報を発表して防除を呼びかけた。

花きについては、りんどうの害虫であるリンドウホソハマキの羽化確認により、5/19に速報を発表した。また、秋期に発生する花腐菌核病の菌核を調査し、胞子を飛散する子実体の発生を確認後、9/19に速報を発表した。

これらの病虫害の発生要因を解析し、次年度の防除計画の策定に資するため、野菜21件、りんどう11件の農家から防除実績を収集した。

病虫害診断については、前年と同数の36件の依頼に対応した。

<農薬適正使用指導>

農薬の適正な販売や使用を徹底するために、農薬の販売者や使用者に対する「農薬適正販売・使用研修会」を開催した(7/10、受講者193名)。

また、農薬取締法に基づき319件の農薬販売者への立入検査を実施したほか、農薬使用基準違反の確認された使用者に対し5件の現地指導を行った。

上記の農薬使用基準違反事例のうち、しゅんぎくについてはJA全農いわてが自主検査を行い、農薬残留基準値超過が確認された。このため、JA全農いわては当該生産者の出荷物を自主回収したほか、県では関係機関・団体に対し文書で注意喚起した。当該地域の生産部会に対しては、農薬適正使用の研修会を2/19に実施し、再発防止のための指導を行った。

(6) 畜産研究所

家畜育種研究室

<肉用牛>

(直接検定、現場後代検定) 優秀な日本短角種の種雄牛を造成するため、令和6年直接検定牛より、現場後代検定牛5頭を選抜した。また、令和4年交配種雄牛4頭の現場後代検定成績を公表した。

(肥育技術) 肥育コストの低減や需要に応じた効率的な肥育技術を確立するため、黒毛和種肥育牛ではトウモロコシサイレージの長期間の給与技術の試験を継続中である。1回目肥育試験の途中であるが、肥育前期から中期までトウモロコシサイレージを給与しても、慣行法と同等に発育し、優れた枝肉格付が確保でき、飼料費を節減できる見込みである。また、日本短角種肥育牛ではふすま代替による配合飼料の節減技術について、試験を継続中である。令和6年度に終了した、ふすまの代替給与の試験での牛肉の官能特性と理化学的性状を成果として公表した。

(遺伝育種) 黒毛和種の種雄牛造成において、直接検定候補牛のゲノム育種価を算出し、直接検定牛の選抜指標として活用した。また、前年度に選抜された直接検定牛のゲノム育種価を算出し、現場後代検定実施牛の選抜に活用したほか、県内で飼養される繁殖雌牛のゲノム育種価を算出し、基礎雌牛の選定に活用した。

枝肉形質のゲノム育種価について、推定育種価と高い相関(0.64~0.77)があることを確認し、県有種雄牛の産肉能力の推定にゲノム育種価の活用が有用であることを再確認した。また、一価不飽和脂肪酸割合のゲノム育種価についても、高い正の相関(0.67以上)が認められ、高い精度で一価不飽和脂肪酸割合の能力の推定ができることを確認した。

県内黒毛和種集団の枝肉について、新細かさ指数や脂肪酸組成割合の平均値が性別により異なる傾向があることを再確認した。また、新細かさ指数は、一価不飽和脂肪酸割合と弱い負の相関があるものの、その他の枝肉形質とは望ましい相関があること、新細かさ指数と一価不飽和脂肪酸割合を同時に改良できる県種雄牛としては、「美津貴」が有用であること、枝肉単価が高くなることを成果として公表した。

黒毛和種の生産性低下に係る候補有害変異について、県内でと畜された肥育牛等のDNA解析を行い、虚弱或多尿に係る6つの候補有害変異の保因状況を明らかにした。このうち、多尿の候補有害変異である遺伝子を保有している種雄牛6頭を明らかとし、成果として公表した。

日本短角種について、SNP遺伝子型を用いた遺伝的多様性の評価により、日本短角種全体として多様性が低下していることを確認したほか、近交係数に比べてゲノム近交度の方が、遺伝的類似度をより正確に推定できることを明らかにし、これらを成果として公表した。

(繁殖) 黒毛和種繁殖牛の妊娠末期から授乳期にかけて栄養充足率が低いと、受胎までの授精回数が増加し、空胎日数が長くなること、また分娩後の血中NEFA値が高く推移し、体重と胸囲の減少率が大きくなることから、分娩前後の栄養状態を胸囲長の増減でモニタリングする手法を成果として公表した。

黒毛和種繁殖雌牛が体内胚採取後に早期に受胎するためのホルモン処置(採胚後のオブシンクと定時人工授精)について、試験を継続中である。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ 日本短角種産肉能力検定(直接法)成績 (行政)
- ・ 日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)成績 (行政)
- ・ ふすまの長期給与が日本短角種牛肉の官能特性及び理化学性状に及ぼす影響(研究)
- ・ 黒毛和種繁殖雌牛における分娩前後の胸囲長の増減を指標とした栄養状態の簡易モニタリング(指導)
- ・ 県内黒毛和種集団における新細かさ指数及び一価不飽和脂肪酸割合の遺伝的パラメーターと育種価の推定(第2報)(行政)
- ・ 県内黒毛和種集団における未診断疾患の遺伝要因とされる候補有害変異の保因状況(研究)
- ・ 県内日本短角種集団におけるゲノム情報を活用した遺伝的多様性と近交度の評価(研究)

＜中小家畜＞

(養豚) バークシャー種の産肉能力向上のため、産肉能力検定による種豚群の改良を進めるとともに、肥育豚の可食肉量を増加させる飼料給与体系の確立に取り組み、肥育全期間または肥育後期の飼料中TDNを抑えることで背脂肪が薄くなること、肥育前期はTDNが高めの飼料とし、体重70kgからはTDNを抑えた後期飼料へ切り替えると、枝肉価格と飼料費の差額試算が最良であること、以上を明らかにし成果として公表した。

(養鶏) 南部かしわ鶏肉の高付加価値化のため、オレイン酸とビタミンEを豊富に含むなたね油粕を飼料に添加する場内試験を実施し、なたね油粕の摂取量と鶏肉中のオレイン酸割合との間に、雌では中程度の正の相関、雄では弱い正の相関があることを明らかにした。また、昨年度成果として公表した「エゴマ油粕添加による鶏肉中の α -リノレン酸割合の向上技術」について、西和賀町で現地試験を行い、成果と同様の結果を得ることができた。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ バークシャー種去勢豚の厚脂を防ぐ肥育飼料給与法(指導)

家畜飼養・飼料研究室

＜家畜飼養＞

乳用牛群検定データの解析による酪農の生産性向上要因の分析と活用では、令和7年度から新たに追加された乳中脂肪酸組成のデータを基に、デノボ、ミックス及びプレフォームの各脂肪酸の組成について、月別、乳量・分娩後日数階層別、地域(検定組合)別に基本統計量をまとめ、その推移・傾向を調査した。結果、夏期の乾物摂取量の低下や、低泌乳階層(20kg/日以下)及び高泌乳階層(45kg/日)、分娩直後(分娩後60日以内)における栄養不足等に起因すると思われる脂肪酸組成の変化、傾向を把握した。

繋留飼養の搾乳牛における効果的なTMR給与方法の確立では、採食行動が活発な時間帯の飼料給与量を増加する等、行動様式に応じて1回当りのTMR給与量を増減する給餌形態(めりはり区)について、等量給与の場合(等量区)と比較を行った。その結果、1日2回給餌では、等量給与とめりはり給与の間に差は見られなかったが、1日5回給餌では、等量区に比べめりはり区の採食量が多くなる傾向が見られたことから、研究成果(区分:研究)に取りまとめた。

乾乳期における放し飼いの普及に向けた管理体系の確立では、行動制限の無い飼養形態(フリーストール、フリーバーン)と繋留飼養における分娩前の乳用牛の行動様式や分娩難易度等を比較するため現地調査を行った。結果、行動制限の無い飼養形態では、分娩直前の横臥時間や寝返り回数が増加し、自然分娩割合が高まる傾向が見られ、この場合、乾乳牛1頭当たりの床面積を8㎡以上にする事で難産の予防が期待できることが明らかとなったことから、研究成果(区分:研究)に反映した。

放牧地における乳用育成牛の乾物摂取量モニタリング手法の開発では、ICT機器を活用した放牧育成牛の乾物摂取量の推定手法の開発を目的に今年度から新たに試験を開始した。乾物摂取量の推定法として、牛左けん部の陥没度を計測した数値「ルーメン深度」は、乾物摂取状況を客観的に把握する指標として有効であり、ルーメン深度が5cm以上で飼料摂取不足による増体の低下が懸念されることを明らかにし、研究成果(区分:指導)として公表した。また、簡易な活動量計を活用した採食時間の増減把握手法について、一様の知見を得た。

また、試験研究に加えて、県乳用牛群検定情報分析センター機能を担い、現地の指導機関向けに「岩手県における乳用牛群検定成績のまとめ」の令和6年版を取りまとめ、市町村別生産成績速報も概ね隔月の頻度で提供した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ 繋留飼養の搾乳牛におけるTMR給与条件の違いが採食行動に及ぼす影響(研究)
- ・ 乾乳期から分娩時における飼養形態が生産性向上に及ぼす要因解析(研究)
- ・ 乳用育成牛の放牧における日増体量確保のためのルーメン深度測定法と目安(指導)

＜飼料生産＞

オーチャードグラス優良品種の特性確認では、越夏性に優れるとされる2品種「まきばゆうか」(極早生)、「きよは」(中生)の本県における栽培2年目の生育特性をそれぞれ標準品種との比較により調査し、これらの品種が越夏性及び秋の草勢、被度に優れ、また、収量も標準品種と同等またはそれ以上であることを確認した。

温暖化に対応した採草地管理については、オーチャードグラス及びチモシーの播種晩限期、更新翌年の肥培管理方法、夏季高温を考慮した刈取間隔を検証するためのデータを収集した。結果、播種晩限について、オーチャードグラスは9月下旬(有効積算気温約250℃以上(5℃以上))、チモシーは10月中旬(同約120℃以上)であることを明らかとし、研究成果(区分:指導)として公表した。

多年生ライグラスを利用した追播技術の確立では、ペレニアルライグラス新品種「夏ごしペレ」追播時の適正な播種量の確認(利用2年目)と、ハイブリッドライグラス新系統「東北11号HR」の実規模追播試験(利用1年目)の植生調査、同ハイブリッドライグラスの播種時期の検討及び滝沢市相の沢牧野における経年荒廃草地への追播実証試験(播種当年)を実施した。その結果、夏ごしペレの播種量の調査では、播種量が増えるほど植生及び収量の改善効果が高まる傾向が見られた。また、ハイブリッドライグラス実規模試験では、無処理に比べて収量が改善する傾向が見られた。その他、播種当年の試験圃場(現地試験区含む。)では、積雪前までに実生個体の定着及び良好な初期生育を確認した。

岩手大学が主宰する共創の場形成支援プログラムでは、昨年度に引き続き、同事業に参画する県北6市町村の採草地における技術課題を調査するとともに、当該地域の普及センターに対し、同様に地域の採草地における課題及び試験研究に要望する事項等について聞き取り調査を行った。その結果、県北のいずれの地域においても令和5年度以降に牧草の夏枯れが発生し、採草地の牧草生産性低下が課題となっており、新たな耐暑性牧草草種、品種または牧草の代替となる作物(C4植物)の選択に対する要望が大きいことを把握した。

採草地の減肥技術の確立では、土壌中の有効態リン酸及び交換性カリ含量に応じた肥培管理手法を検討するために、肥培管理1年目の施用試験を行った。結果、採草地の乾物収量は土壌中有効態リン酸含量には影響されなかったが、交換性カリ含量が増えると増加する傾向が見られた。

維持管理採草地における堆肥の表層施用技術の確立では、堆肥施用1年目の牧草(オーチャードグラス)収量は堆肥と化学肥料を併用した区または化学肥料を施用した区が高くなる一方、シロクロバは無処理区及び堆肥のみ施用した区で乾物収量が増加する傾向が見られた。

その他、県南の集落営農組織の要請を受けて、農業普及技術課農業革新支援担当及び現地農業改良普及センターによる、当所の既往研究成果である不耕起栽培技術を活用した飼料用トウモロコシの雑草対策を支援した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ オーチャードグラス、チモシーの秋季更新時における播種晩限の推定(指導)

＜牧草の放射性物質対策＞

先端プロ実証研究において、2回目の完全更新時のカリ資材の効果比較を行った。利用2年目の牧草中放射性セシウム(RCs)濃度は、草地更新時のカリ資材が塩化カリ40mg/100g矯正量施用区で最も低かった。牧草年間収量は無施肥区で有意に低かったが、カリ資材施用区間には差が無いことを確認した。

耕起困難放牧地において、所内試験4年目は利用2、3年目と同様に牧草中放射性セシウム(RCs)濃度は「K12・緩効性70%」施用区が最も低くなったが、牧草の年間収量には各処理間に有意差は見られなかった。

また、その他放射性物質被害畜産総合対策事業業務として、畜産物や牧草の放射性物質濃度測定を随時実施した。

外山畜産研究室

＜子牛の生産状況＞

外山畜産研究室では繁殖雌牛68頭(黒毛和種32頭、日本短角種36頭)を飼養している(令和7年2月1日現在)。

黒毛和種では、生産された子牛のうち24頭を1頭当たり平均616千円で販売した。同様に日本短角種の子牛は27頭を出荷し、1頭当たり平均価格は389千円であった。

＜成果の発信状況＞

和牛繁殖経営において、子牛の肺炎や腸炎等の疾病や異状の早期発見・早期治療が肝要だが、熟練した管理者で

も子牛の異状を見逃してしまうことが課題であった。そこで、ヒト用皮下組織間質液グルコース濃度(tGLU)を測定するセンサーを用いることにより、黒毛和種哺乳子牛に約8日間連続装着を可能としながら、血糖値をモニタリングすることができ、また、ピーク時の最大値が前日比50mg/dL以上の低下で下痢や発熱等が発生することから、早期異状発見が期待できることを明らかにした。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ ヒト用皮下組織間質液グルコース濃度測定による黒毛和種哺乳牛の血糖値モニタリングと子牛の異状との関連性(研究)

<寄託放牧の状況>

寄託放牧は、日本短角種と馬を生産者から預かり、低コスト生産に寄与している。

日本短角種については、5月20日から10月17日まで150日間放牧を実施し、生産者4戸から繁殖牛32頭と子牛30頭受入れた。日本短角種振興の一助となるよう定期衛生検査はじめ管理業務に注力した。

また、馬については5月13日から10月10日まで150日間放牧を実施し、雌馬8頭、雄馬1頭、子馬3頭を受入れた。古くから馬産地として馬を大事に扱ってきた盛岡地域の伝統的な祭り「チャグチャグ馬っこ」で行進した馬たちを預かり、馬事振興への貢献を念頭に、適切な管理を遂行した。

種山畜産研究室

黒毛和種改良事業の一環として県内産黒毛和種種雄牛候補牛8頭を選定し直接検定を実施した。また、令和6年度直接検定終了牛から現場後代検定を実施する候補牛3頭(「叙新」号、「菊太郎」号及び「美国姫」号)を選抜した。現場後代検定については令和6年度に検定を開始した3頭の種雄牛候補の枝肉成績が判明し、「勝美国」号を基幹種雄牛に選抜した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ 黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績(行政)
- ・ 黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績(行政)

(7) 県北農業研究所

果樹・野菜研究室

県北・沿岸地域の冷涼気象や中山間地域の立地条件に対応した野菜・果樹の安定生産技術の確立に向け、各種試験研究を実施した。なお、令和6年度より研究室が改組され、温暖化など気候変動を見据え、県北地域の気候に適した果樹の高品質安定生産技術の開発等を推進するため、果樹部門が設置された。

令和3年2月に高度な環境制御が可能な「環境制御型園芸温室」が竣工し、県北の施設きゅうり栽培に適した環境制御技術の確立に向け、令和3年度から北いわてスマート農業プラットフォーム創造拠点整備事業に係る栽培試験を、令和5年度からデータ駆動型業推進事業を活用して研究に取り組んでいる。本年度環境制御技術導入による収量向上に伴って作業労力の増加が懸念されるため、出荷量及び生育量を予測する手法として、環境制御技術のモニタリングデータを活用した生育診断・出荷量予測ツールの開発に取り組んだ。さらには、二戸普及センターとの連携により現地普及展示圃に対する支援を行った。

また、「雨よけほうれんそうにおけるミストによる簡易環境制御技術の開発」では、農業普及技術課農業革新支援担当や久慈農業改良普及センター、二戸農業改良普及センターと連携して、ミスト噴霧による増収効果と省力効果が確認できた。本年度は、ミスト噴霧による効果の品種間差に関する試験に取り組んだ。

露地の主要品目であるキャベツについて、重要病害である根こぶ病対策として、既存の抵抗性品種の栽培特性を把握すること、県内で発生している根こぶ病の病原型を明らかにすることで、抵抗性品種を活用した根こぶ病対策技術を確立する。本技術確立のため、場内試験のみではなく現地発生ほ場においても試験を実施している。本年度は、現地ほ場の低密度条件における菌密度を把握するため、リアルタイムPCRによる測定法を確立した。

果樹研究では、令和6年度からの「県北地域に適したりんごオリジナル品種等の優良品種の選抜」及び「県北地域に適した核果類の優良品種の選抜と省力栽培技術の確立」において、養成した大苗を定植し県北研究所初の樹園地を構築した。一方、定植直後にシカによる被害がみられたため、農業普及技術課、農産園芸課との連携により、11月27～28日

に普及員を対象とした講習会を開催し、恒久電気柵を設置した。また、二戸地域の大きな課題であるりんご「はるか」の蜜入り向上対策については、「りんご優良品種の高品質安定生産技術の確立」として令和7年度に課題化し、二戸農業改良普及センター、二戸市等と連携し現地調査を実施した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ ミスト噴霧の効果は、ほうれんそうの品種によって異なる(指導)
- ・ 施設きゅうりの摘心栽培における生育予測手法(指導)
- ・ 施設きゅうり摘心栽培における生育予測に基づく栽培管理支援ツール(指導)
- ・ キャベツ黒すす病の発生確認と防除効果(研究)

作物研究室

中山間地域における生産性・収益性の高い組織営農技術の開発と土地利用型品目の導入に向けて、水稻、小麦、大豆の奨励品種決定調査を実施し、供試系統の特性を把握した。水稻は、「白銀のひかり」の栽培法試験として、移植栽培での苗質、栽植密度、施肥体系及び湛水直播栽培方法について検討を行った。大豆は、「リョウユウ」の栽培法試験として、作期、栽植密度、収穫時期について検討を行い、水田利用研究室と連携して研究成果を取りまとめた。水稻・小麦・大豆の作況試験を実施し、令和7年度の夏季高温及び少雨による影響について、生産システム研究室と連名で作柄要因の解析を行った。

雑穀の新品種開発については、きびとたかきびについて系統群選抜および生産力検定を行い、きびは交雑後代10世代15系統群から6系統を選抜し、たかきびは、交雑後代7世代20系統群から11系統を選抜した。また、きびの重イオンビーム照射変異後代4世代48系統群を供試し、15系統を選抜した。雑穀の原種生産では、あわ1品種(ゆいこがね)と、ひえ1品種(ねばりっこ2号)を採種した。

県北地域における自動操舵農機を活用した高精度播種・機械除草技術の確立に向けて、RTK-GNSS方式の自動操舵機器を活用した雑穀(アマランサスとたかきび)の播種・除草作業について直進性や作業精度を検討し、研究成果を取りまとめた。また、前年度で終了した農業機械技術クラスター事業の試験課題「雑穀類対応コンバインの開発」について、汎用コンバイン改良機の販売が未定となったことを踏まえ、改良機の性能について研究区分の研究成果として取りまとめた。

その他、研究課題や地域課題とその解決方策について、共有を目的に各種研修会等への参加を積極的に行った。

以上の取組から、今年度は以下の試験研究成果を取りまとめた。

- ・ 大豆品種「リョウユウ」の栽培法(普及)
- ・ 雑穀の播種及び機械除草におけるRTK-GNSS自動操舵システムの効果(指導)
- ・ 雑穀類対応汎用コンバインの開発(研究)

4 令和7年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

研究推進計画 分野 担当部所	総 課題 数	1 農 業 構 造 ・ 経 営 管 理	2 生 産 工 学	3 水 稻	4 畑 作 物	5 特 産 作 物	6 果 樹	7 野 菜	8 花 き	9 土 壌 作 物 栄 養	10 病 害 虫 制 御	11 乳 用 牛	12 肉 用 牛	13 中 小 家 畜 (豚・鶏)	14 草 地 ・ 飼 料 作 物	15 畜 産 環 境
企画管理部	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農業経営研究室	7	7														
生産基盤研究部	63	2	4	40	11	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0
水田利用研究室	22	1	2	5	11					1	2					
生産システム研究室	17	1	2	11						1	2					
作物育種研究室	24			24												
園芸技術研究部	61	1	0	0	0	0	28	16	10	2	4	0	0	0	0	0
果樹研究室	31						28			1	2					
野菜研究室	11	1						8		1	1					
花き研究室	11								10		1					
南部園芸研究室	8							8								
生産環境研究部	29	1	0	2	2	0	1	0	0	10	13	0	0	0	0	0
土壌肥料研究室	15	1		2	1		1			10						
病理昆虫研究室	14				1						13					
畜産研究所	37	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	21	2	9	0
家畜育種研究室	15												13	2		
家畜飼養・飼料研究室	12									1		4			7	
外山畜産研究室	4												2		2	
種山畜産研究室	6												6			
県北農業研究所	39	0	2	11	8	4	5	5	0	2	2	0	0	0	0	0
果樹・野菜研究室	13		1				5	5		1	1					
作物研究室	26		1	11	8	4				1	1					
総 計	236	11	6	53	21	4	34	21	10	17	23	4	21	2	9	0

※1 複数の分野に再掲されている研究課題はそれぞれに計上

2 複数の担当研究室がある研究課題はそれぞれに計上

3 細目課題のない課題は小課題を計上

(2) 試験研究課題一覧

凡 例

・主査:	小課題の主査研究室
・No.:	小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に()表記
・課題:	(課題番号)課題名を記載、小課題は太字表示 ※ 課題番号: 細目課題は1000番代表記、細目1〜4まで各桁毎の表記
・開始・終了:	課題の実施〜終了年数
・予算区分:	国庫補助;国庫補助事業、国庫委託;国庫委託事業、独法委託;独法委託事業、民間委託;民間委託事業 令達;令達予算研究、県単研究;県単予算予算、県単採種;主要農作物採種管理費
・担当:	小課題、細目課題の担当研究室名

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【農業経営研究室】						
農業経営	1	(R3-2)経営環境の変化に対応した農業技術体系データの提示	R3	R7	県単	農業経営
農業経営	2	(R3-4)スマート農業技術の導入・定着プロセスと利活用方策の提示	R3	R7	県単	農業経営
農業経営	3	(R3-19)水田等を活用した野菜産地・経営体の取組及びマネジメント手法の提示	R3	R7	県単	農業経営/水田利用/野菜/土壌肥料
農業経営	4	(R6-01)岩手県における野菜作経営モデルの構築と成立条件の解明	R6	R10	県単	農業経営
農業経営	5	(R6-05)大規模水田作経営の成立条件の解明	R6	R10	県単	農業経営
農業経営	6	(R6-07)初冬から早春まで「いつでも直播」:春の作業ピークを平準化できる革新的稲作技術	R6	R10	独法等委託	農業経営/生産システム
農業経営		(R6-07-1000)岩手県における初冬期・早春期乾田直播技術の確立	R6	R10	独法等委託	生産システム
農業経営		(R6-07-2000)「いつでも直播」の経営的評価	R6	R10	独法等委託	農業経営
農業経営	7	(R7-06)2025年農林業センサス等を活用した農業構造動向分析	R7	R10	県単	農業経営
【生産基盤研究部水田利用研究室】						
水田利用	8	(803)水稻奨励品種決定基本試験	H14	R10	県単	水田利用/作物
水田利用		(803-1100)予備試験 中生・晩生	H14	R10	県単	水田利用
水田利用		(803-1200)予備試験 早生	H14	R10	県単	作物
水田利用		(803-2100)本試験 中生・晩生	H14	R10	県単	水田利用
水田利用		(803-2200)本試験 早生	H14	R10	県単	作物
水田利用		(803-3000)現地試験	H14	R10	県単	水田利用/作物
水田利用		(803-4100)有望系統・品種の栽培法 中生・晩生	H14	R8	県単	生産システム
水田利用		(803-4200)有望系統・品種の栽培法 早生	H14	R8	県単	作物
水田利用	9	(807)水田雑草の効率的防除技術の開発	H14	R10	民間委託	水田利用/作物
水田利用		(807-1000)水稻作用除草剤第2次適用性試験	H14	R10	民間委託	水田利用/作物
水田利用		(807-2000)除草剤による水田畦畔管理の省力化技術の開発	R7	R8	県単	水田利用
水田利用	10	(889)麦類耐寒雪性特性検定試験	H14	R10	民間委託	水田利用
水田利用	11	(890)畑作物の生育相及び気象反応の解明	H14	R10	県単	水田利用/作物
水田利用		(890-1000)麦類の生育相と気象反応の解明	H14	R10	県単	水田利用/作物
水田利用		(890-1100)麦類の生育相と気象反応の解明 県央・県南地域	H26	R10	県単	水田利用
水田利用		(890-1200)麦類の生育相と気象反応の解明 県北地域	H14	R10	県単	作物
水田利用		(890-2000)大豆の生育相と気象反応の解明	H14	R10	県単	水田利用/作物
水田利用		(890-2100)大豆の生育相と気象反応の解明 県央・県南地域	H14	R10	県単	水田利用
水田利用		(890-2200)大豆の生育相と気象反応の解明 県北地域	H14	R10	県単	作物
水田利用	12	(891)畑作物原原種・原種生産	H22	R10	県単	水田利用/作物
水田利用	13	(H19-12)大豆等奨励品種決定試験及び有望系統の特性調査	H19	R10	県単	水田利用/作物
水田利用		(H19-12-1000)(1)奨励品種決定試験(県南・県央地域)	H19	R10	県単	水田利用
水田利用		(H19-12-2000)(2)奨励品種決定試験(県北地域)	H19	R10	県単	作物

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【生産基盤研究部水田利用研究室】(続き)						
水田利用		(H19-12-3100)(3)有望系統特性調査(県南・県央地域)	H19	R10	県単	水田利用
水田利用		(H19-12-3200)(3)有望系統特性調査(県北地域)	H19	R10	県単	作物
水田利用	14	(H19-13)麦類の奨励品種決定試験及び有望系統特性調査	H26	R10	県単	水田利用/作物
水田利用		(H19-13-1000)(1)奨励品種決定試験(県南・県央地域)	H26	R10	県単	水田利用
水田利用		(H19-13-2000)(2)奨励品種決定試験(県北地域)	H26	R10	県単	作物
水田利用		(H19-13-3000)(3)有望系統特性調査	H26	R10	県単	水田利用
水田利用	15	(H30-02)地下かんがい及びほ場水管理システムの利用技術の確立	H30	R7	県単/令達	水田利用
水田利用		(H30-02-2000)主要水田農作物(水稻・大豆等)での営農実証	R1	R7	令達	水田利用
水田利用	16	(R2-4)小麦「ナンピキラリ」の高品質安定栽培法	R2	R8	県単	水田利用/土壌肥料/病理昆虫
水田利用	17	(R7-01)畦畔管理の省力化技術の開発	R7	R9	県単	水田利用
水田利用		(R7-01-1000)畦畔管理の省力化技術の開発	R7	R9	県単	水田利用
【生産基盤研究部生産システム研究室】						
生産システム	18	(061)水稻原種生産	S22	R10	県単	生産システム
生産システム	19	(062)水稻原種生産	S29	R10	県単	生産システム
生産システム	20	(805)水稻作況調査と作柄成立要因の解析	H14	R10	県単	生産システム/作物
生産システム		(805-1000)水稻作況調査	H14	R10	県単	生産システム/作物
生産システム		(805-1100)水稻作況調査 県央・県南地域	H14	R10	県単	生産システム
生産システム		(805-1200)水稻作況調査 県北地域	H14	R10	県単	作物
生産システム		(805-2000)水稻優良品種の気象反応試験	H14	R10	県単	生産システム/作物
生産システム		(805-2100)水稻優良品種の気象反応試験 県央・県南地域	H14	R10	県単	生産システム
生産システム		(805-2200)水稻優良品種の気象反応試験 県北地域	H14	R10	県単	作物
生産システム		(805-3000)水稻作柄成立要因の解析	H14	R10	県単	生産システム/作物
生産システム	21	(R3-5)リモートセンシングによる水稻生育診断技術の開発	R3	R8	県単	生産システム/土壌肥料/作物
生産システム		(R3-5-2000)ドローンによる玄米タンパク質含有率及び成熟期推定技術の確立	R3	R8	県単	生産システム/作物
生産システム		(R3-5-3000)衛星画像による生育状況の把握及び活用法の検討	R3	R8	県単	生産システム
生産システム	22	(R5-15)水稻の疎播疎植・高精度2段施肥による省力多収栽培技術の開発・実証	R5	R8	独法等委託	生産システム/土壌肥料
生産システム	23	(R5-16)高湿材適応コンパインの開発と性能評価	R5	R7	独法等委託	生産システム
【生産基盤研究部作物育種研究室】						
作物育種	24	(H31-07)多様なニーズに対応する水稻品種の育成	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-1000)交配母本評価と交配	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-2000)初期世代養成	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-3000)個体選抜	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-4000)系統選抜	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-4100)単独系統	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-4200)生産力検定予備試験系統群	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-4300)生産力検定本試験系統群	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-5000)生産力検定試験	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-5100)生産力検定予備試験	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-5200)生産力検定本試験	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-5300)生産力検定試験早生系統	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-6000)特性検定試験	R1	R10	令達	作物育種

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【生産基盤研究部作物育種研究室】 (続き)						
作物育種		(H31-07-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-6200)葉いもち圃場抵抗性検定調査	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-6300)穂いもち圃場抵抗性検定調査	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-6500)食味官能試験	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-6600)食味関連成分分析及び物性試験	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-6700)穂発芽性検定試験	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-6800)直播適性検定試験	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-6900)高温登熟耐性検定試験	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-7000)DNAマーカー等先端技術利用	R1	R10	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-8000)育成系統採種	R1	R10	令達	作物育種
作物育種	25	(R3-22)精緻なゲノム改良による低コスト生産可能な超多収良食味水稻品種の育成	R3	R7	独法等委託	作物育種
【園芸技術研究部果樹研究室】						
果樹	26	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法	H14	R10	令達/民間委託	果樹
果樹		(850-1000)果樹園用除草剤の効果的使用法	H14	R10	令達/民間委託	果樹
果樹		(850-2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法	H14	R10	民間委託	果樹
果樹	27	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明	H14	R15	県単/民間委託	果樹
果樹		(851-1000)りんごの生育・生態の把握	H14	R15	県単/民間委託	果樹
果樹		(851-2000)ぶどうの生育・生態の把握	H14	R15	県単	果樹
果樹		(851-3000)西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握	H14	R15	県単	果樹
果樹	28	(H26-15)りんごのわい化栽培における早期多収・省力化を目指した栽培法の確立	H26	R10	令達/独法等委託	果樹
果樹		(H26-15-1000)早期多収・省力化を目指した栽培法の確立	H26	R10	令達	果樹
果樹		(H26-15-3000)カラムナーリングを利用した革新的栽培技術の体系化	R5	R7	独法等委託	果樹
果樹	29	(H31-10)本県に適したりんご優良品種の開発・導入	R1	R10	令達	果樹
果樹		(H31-10-1000)多様なニーズに適合した県オリジナルりんご品種の育成	R1	R10	令達	果樹
果樹		(H31-10-2000)国育成系統適応性試験(盛岡72～74号)	R1	R10	令達	果樹
果樹		(H31-10-3000)国内外導入品種の選抜	R1	R10	令達	果樹
果樹	30	(H31-11)特産果樹の優良品種の選抜および省力的栽培技術の導入	H31	R10	県単/令達	果樹
果樹		(H31-11-1000)おうとう、もも等の優良品種の選抜	H30	R10	県単/令達	果樹
果樹		(H31-11-2000)西洋なしの優良品種の選抜	H30	R10	県単	果樹
果樹		(H31-11-3000)特産果樹における省力的栽培技術の導入	R5	R10	令達	果樹
果樹	31	(R3-8)ブルーベリーにおける省力的な簡易剪定技術の確立	R3	R7	県単	果樹
果樹	32	(R4-6)りんごオリジナル品種などの省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	R4	R10	県単/令達/独法等委託	果樹
果樹		(R4-6-1000)オリジナル品種の安定生産技術の確立	R4	R10	県単/民間委託	果樹
果樹		(R4-6-2000)優良品種の栽培技術の確立	R4	R10	県単/民間委託	果樹
果樹		(R4-6-3000)優良品種の摘花剤及び摘果剤利用技術の確立	R4	R10	県単/民間委託	果樹
野菜		(R4-6-4000)効果的・体系的な凍霜害対策技術の確立	R6	R8	令達	果樹/果樹・野菜
果樹	33	(R5-11)本県に適したぶどう品種の選抜と栽培技術の確立	R5	R9	県単/令達/独法等委託	果樹
果樹		(R5-11-1000)優良品種の特性把握及び選抜	R5	R9	県単	果樹
果樹		(R5-11-2000)系統適応性検定試験	R5	R9	独法等委託	果樹
果樹		(R5-11-3000)生食用品種の安定・省力栽培技術の確立	R5	R9	県単	果樹
果樹		(R5-11-4000)醸造用品種の安定・省力栽培技術の確立	R5	R9	令達	果樹

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【園芸技術研究部果樹研究室】 (続き)						
果樹	34	(R5-17)農業副産物を活用した高機能バイオ炭の製造・施用体系の確立	R5	R7	独法等委託	果樹/土壌肥料
果樹		(R5-17-1000)りんごせん定枝のバイオ炭製造方法の検討と施用効果の確認	R5	R7	独法等委託	果樹/土壌肥料
果樹	35	(R7-09)りんご園における自動運転スピードスプレーヤに適する栽培方式の検討	R7	R8	独法等委託	果樹
果樹		(R7-09-1000)わい化栽培における自動運転スピードスプレーヤに適する栽培方式・条件の検討	R7	R8	独法等委託	果樹
【園芸技術研究部野菜研究室】						
野菜	36	(R3-7)施設栽培における効率的な炭酸ガス施用技術の開発	R3	R7	県単/令達/国庫委託/独法等委託	野菜
野菜		(R3-7-5000)キュウリの局所炭酸ガス施用技術の開発	R3	R7	国庫委託	野菜
野菜	37	(R3-9)夏秋ピーマン安定生産技術の確立	R3	R8	県単/令達	野菜
野菜		(R3-9-1000)夏秋栽培における尻腐れ症対策技術の確立	R3	R7	県単	野菜
野菜		(R3-9-2000)大規模経営での導入を想定した省力的な整枝・誘引方法	R3	R8	県単	野菜
野菜		(R3-9-4000)青枯病抵抗性台木の検討	R6	R8	国庫補助	野菜
野菜	38	(R5-1)ブロッコリー安定生産技術の確立	R5	R7	県単	野菜
野菜	39	(R5-18)たまねぎ安定生産に資する品種開発と優良品種の確保	R5	R7	県単/独法等委託/民間委託	野菜
野菜		(R5-18-1000)加工歩留まりの高いF1タマネギ品種の開発	R5	R7	独法等委託	野菜
野菜		(R5-18-2000)岩手県の気候に適する優良品種の確保	R5	R7	県単/民間委託	野菜
野菜	40	(R5-19)国産タマネギの安定供給に向けた持続可能なタマネギ腐敗性病害防除技術の構築	R5	R9	独法等委託	野菜
【園芸技術研究部花き研究室】						
花き	41	(843)りんどうの育成と生理生態の解明	H14	R10	県単	花き
花き		(843-1000)作況調査	H14	R10	県単	花き
花き		(843-3000)栽培に関わる形質や生理障害等に及ぼす要因解明	H14	R10	県単	花き
花き	42	(H31-12)りんどうの革新的な栽培技術の開発	R1	R8	県単	花き
花き		(H31-12-1000)需要期向け切り花りんどうの栽培技術の開発	R1	R8	県単	花き
花き		(H31-12-3000)極早生品種のジベレリン処理による生育促進効果の解明	R6	R8	県単	花き
花き	43	(R5-13)産地を強化するりんどうの品種育成	R5	R9	令達/独法等委託	花き
花き		(R5-13-1000)切り花品種の育成	R5	R9	令達	花き
花き		(R5-13-2000)鉢花品種の育成	R5	R9	令達	花き
花き		(R5-13-3000)親系統の育成	R5	R9	令達	花き
花き		(R5-13-4000)親系統の維持	R5	R9	令達	花き
花き		(R5-13-5000)未受精胚珠培養等による純系りんどうの作出	R5	R9	令達	花き
花き	44	(R6-08)リンドウの耐病性品種の育成	R6	R10	独法等委託	花き
【園芸技術研究部南部園芸研究室】						
南部園芸	45	(H25-03)地域適応性の高いいちご系統の選定	H25	R8	県単	南部園芸
南部園芸		(H25-03-2000)地域適応性の高い夏秋どり栽培向けいちご系統の選定	H25	R8	県単/独法等委託	南部園芸
南部園芸		(H25-03-5000)地域適応性の高い促成栽培向けいちご品種の選定	R1	R8	県単	南部園芸
土壌肥料		(H25-03-6000)病害抵抗性を持ついちご系統の栽培特性の評価	R5	R7	県単/独法等委託	南部園芸
南部園芸	46	(R3-10)いちご夏秋作型における秋期収量向上のための草勢維持管理技術の開発	R3	R7	県単	南部園芸
南部園芸		(R3-10-1000)電照用電球のLED代替技術の検証	R3	R7	県単	南部園芸
南部園芸		(R3-10-2000)草勢維持のための株管理手法の改良	R4	R7	県単	南部園芸
南部園芸		(R3-10-4000)株管理と高温対策技術との組み合わせによる秋期収量向上技術の開発	R6	R7	県単	南部園芸
南部園芸	47	(R5-12)いちご閉鎖型高設栽培システムの培地無加温条件に対応した施肥方法の開発	R5	R9	県単	南部園芸

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【園芸技術研究部南部園芸研究室】 (続き)						
南部園芸		(R5-12-1000)基肥、追肥の施用方法の検討	R5	R7	県単	南部園芸
南部園芸		(R5-12-2000)石灰資材の有効性の検証	R5	R7	県単	南部園芸
【生産環境研究部土壌肥料研究室】						
土壌肥料	48	(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査	H15	R10	県単	土壌肥料
土壌肥料	49	(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査	H15	R12	県単	土壌肥料
土壌肥料		(H15-24-1000)水田における有機質資源連用効果	H15	R12	県単	土壌肥料
土壌肥料		(H15-24-2000)畑地における有機質資源連用効果	H15	R12	県単	土壌肥料
土壌肥料	50	(H16-22)新肥料の実用化	H16	R7	民間委託	土壌肥料
土壌肥料		(H16-22-1100)水田利用研究室担当分	H20	R7	民間委託	水田利用
土壌肥料		(H16-22-1200)生産システム研究室担当分	H20	R7	民間委託	生産システム
土壌肥料		(H16-22-2100)果樹研究室担当分	H20	R7	民間委託	果樹
土壌肥料		(H16-22-2200)野菜研究室担当分	H20	R7	民間委託	野菜
土壌肥料		(H16-22-3100)土壌肥料研究室担当分	H20	R7	民間委託	土壌肥料
土壌肥料		(H16-22-4100)県北果樹・野菜研究室担当分	H20	R7	民間委託	果樹・野菜
土壌肥料		(H16-22-4200)県北作物研究室担当分	H20	R7	民間委託	作物
土壌肥料		(H16-22-5000)畜産研究所担当分	H20	R7	民間委託	家畜飼養・飼料
土壌肥料	51	(H20-20)土壌由来温室効果ガスインベントリ情報等整備調査	H20	R8	国庫委託	土壌肥料
土壌肥料	52	(R2-10)革新的な土壌データの取得方法およびデータ高付加価値化手法の開発	R2	R7	独法等委託	土壌肥料
土壌肥料	53	(R4-5)基肥施用から荒代掻きまでの日数が水稻生育に及ぼす影響の解明	R4	R7	県単	土壌肥料
土壌肥料	54	(R5-10)岩手県南部における耐倒伏性の強い小麦の品種特性を生かした多収肥培管理技術の確立	R5	R9	県単	土壌肥料
土壌肥料	55	(R6-06)国内資源の肥料利用拡大対策における地力調査	R6	R9	国庫補助	土壌肥料
土壌肥料	56	(R7-10)イネ根圏微生物叢制御による物質循環型水稻品種開発に向けたイネ遺伝子機能解明	R7	R7	令達	土壌肥料
【生産環境研究部病理昆虫研究室】						
病理昆虫	57	(402)新農薬の効果検定と防除指針作成	H9	R10	民間委託	果樹/野菜/花き/病理昆虫/果樹・野菜/作物
病理昆虫		(402-1000)新農薬の効果検定と防除指針作成(生産環境研究部)	H9	R10	民間委託	病理昆虫
病理昆虫		(402-2000)新農薬の効果検定と防除指針作成(県北農業研究所)	H9	R10	民間委託	果樹・野菜/作物
病理昆虫		(402-3000)新農薬の効果検定と防除指針作成(園芸技術研究部)	H9	R10	民間委託	果樹/野菜/花き
病理昆虫		(402-4000)新農薬の効果検定と防除指針作成(生産基盤研究部)	H9	R10	民間委託	水田利用/生産システム
病理昆虫	58	(H09-03)【植物防疫事業研究】	H9	R10	令達	病理昆虫
病理昆虫	59	(H30-05)りんご園地における下草管理とカブリダニ類等土着天敵の関係	H30	R7	国庫補助	果樹/病理昆虫
病理昆虫		(H30-05-1000)りんご園地における下草管理とカブリダニ類等土着天敵の関係	H30	R7	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	60	(H30-10)地域特産物における新防除資材の実用化	H30	R10	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	61	(R3-20)殺虫剤を使用しない斑点米カメムシ総合防除体系の検討	R3	R8	国庫委託	水田利用/生産システム/病理昆虫
病理昆虫		(R3-20-1000)畦畔管理体系の確立	R3	R8	国庫委託	水田利用/病理昆虫
病理昆虫	62	(R4-1)農薬だけに頼らない施設トマトの害虫防除技術の開発	R4	R8	国庫委託	病理昆虫
病理昆虫	63	(R4-8)斑点米カメムシ類の発生予測システムの実用化	R4	R8	独法等委託	病理昆虫
病理昆虫	64	(R5-2)春期温暖化に対応したリンゴ病害の総合防除体系の確立	R5	R8	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(R5-2-1000)リンゴ黒星病の早期感染に対応した防除体系の確立	R5	R7	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(R5-2-2000)リンゴ褐斑病の早期感染に対応した防除体系の確立	R6	R8	国庫委託	病理昆虫
病理昆虫	65	(R5-20)リンゴにおける土着天敵の動態解明と検出技術の実践評価	R5	R9	独法等委託	病理昆虫
病理昆虫	66	(R5-21)PMoVを中心とした接触伝染性ウイルスにおける月桃資材の利用法の確立	R5	R7	独法等委託	病理昆虫

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【生産環境研究部病理昆虫研究室】(続き)						
病理昆虫	67	(R7-08)農薬だけに頼らない施設きゅうりの害虫総合防除技術の開発	R7	R8	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(R7-08-1000)目合いの細かい防虫ネットを核とした防除体系の評価	R7	R8	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	68	(R7-11)ダイズ黒根腐病の発生実態調査と被害軽減手法の開発	R7	R9	独法等委託	病理昆虫
【畜産研究所家畜育種研究室】						
家畜育種	69	(236)日本短角種産肉能力検定(直接法)	S45	R10	令達	家畜育種
家畜育種	70	(237)日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)	H17	R10	令達	家畜育種
家畜育種	71	(H30-13)種雄牛選抜におけるゲノム育種価の実用化	H30	R8	令達/独法等委託	家畜育種/種山畜産
家畜育種		(H30-13-1000)枝肉6形質のゲノミック評価の実用化	H30	R8	令達	家畜育種/種山畜産
家畜育種		(H30-13-2000)脂肪酸組成のゲノミック評価手法の確立	R3	R8	令達/独法等委託	家畜育種/種山畜産
家畜育種	72	(R4-4)県内パークシャー種豚群の産肉能力向上と可食肉量を増加させる飼料給与体系の確立	R4	R7	県単	家畜育種
家畜育種	73	(R4-9)ゲノム情報を活用した日本短角種集団における遺伝的多様性の評価と近交回避交配法の確立	R4	R7	独法等委託	家畜育種
家畜育種	74	(R5-6)配合飼料を節減する日本短角種の低コスト肥育技術の確立	R5	R8	県単	家畜育種
家畜育種	75	(R5-7)黒毛和種における脂肪交雑形状と脂肪酸組成との関係解析	R5	R7	令達	家畜育種
家畜育種	76	(R5-8)黒毛和種繁殖雌牛における授精の適否を簡易に把握する手法の確立	R5	R7	県単	家畜育種
家畜育種	77	(R5-22)黒毛和種におけるゲノムデータを活用した有害変異保因牛の遺伝的原因の解明	R5	R7	独法等委託	家畜育種/種山畜産
家畜育種	78	(R6-02)トウモロコシサイレージを長期給与した黒毛和種の低コスト肥育技術の開発	R6	R10	県単	家畜育種
家畜育種	79	(R6-04)地域資源を活用した南部かしわの鶏肉の高付加価値化技術の確立	R6	R8	県単	家畜育種
家畜育種	80	(R7-12)黒毛和種における体内胚採取後の早期受胎のための定時授精法の開発	R7	R8	県単	家畜育種
【畜産研究所家畜飼養・飼料研究室】						
家畜飼養・飼料	81	(R3-16)温暖化に対応した採草地管理	R3	R7	県単	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	82	(R3-24)除染草地と耕起困難草地における放射性セシウム吸収抑制のための維持管理技術の開発	R3	R7	独法等委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	83	(R4-2)乳用牛群検定データの解析による酪農の生産性向上要因の分析と活用	R4	R8	令達	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	84	(R4-3)繋留飼養の搾乳牛における効果的なTMR給与方法の確立	R4	R7	県単	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	85	(R4-10)オーチャードグラス優良品種の特性確認	R4	R8	独法等委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	86	(R4-11)多年生ライグラス類を利用した追播技術の確立	R4	R8	独法等委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	87	(R5-5)乾乳期における放し飼いの普及に向けた管理体系の確立	R5	R7	県単	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	88	(R6-13)「いわて畜産テリトリー」の実現に向けた循環型粗飼料生産・活用システムの開発	R6	R7	独法等委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料		(R6-13-1000)地球温暖化に対応するための越夏性に優れる牧草種普及拡大のための要因分析	R6	R7	独法等委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	89	(R7-02)放牧地における乳用育成牛の乾物摂取量モニタリング手法の開発	R7	R9	県単	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	90	(R7-03)採草地の減肥技術の確立	R7	R9	県単	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	91	(R7-04)維持管理採草地における堆肥の表層施用技術の確立	R7	R9	県単	家畜飼養・飼料
【畜産研究所外山畜産研究室】						
外山畜産	92	(R5-9)黒毛和種哺乳子牛のICT機器活用による早期異常発見技術の確立	R5	R7	県単	外山畜産
外山畜産	93	(R6-03)2シーズン放牧を取り入れた肉量・肉質への影響を最小限とする日本短角種の低コスト肥育技術の確立	R6	R10	県単	外山畜産
外山畜産	94	(R7-05)牧草地における立体防護柵によるニホンジカ食害防除効果の実証	R7	R10	県単	外山畜産
【畜産研究所種山畜産研究室】						
種山畜産	95	(234)黒毛和種産肉能力検定(直接法)	S62	R10	県単	家畜育種/種山畜産
種山畜産	96	(235)黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定)	H1	R10	県単	家畜育種/種山畜産
種山畜産	97	(857)県有種雄牛の利用及び能力調査	H14	R10	県単	種山畜産

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【県北農業研究所果樹・野菜研究室】						
果樹・野菜(県北)	98	(R3-11)県北地域の施設きゅうり等に適した環境制御技術の開発	R3	R7	県単/国庫委託	果樹・野菜
果樹・野菜(県北)	99	(R3-21)抵抗性品種によるキャベツ根こぶ病対策の確立	R3	R10	国庫委託	果樹・野菜
果樹・野菜(県北)		(R3-21-1000)既存の抵抗性寒玉系品種の特性評価	R3	R10	国庫委託	果樹・野菜
果樹・野菜(県北)		(R3-21-2000)病原型判別と抵抗性春系品種の抵抗性評価	R4	R10	独法等委託	果樹・野菜
果樹・野菜(県北)	100	(R5-14)雨よけほうれんそうにおける環境制御技術の開発	R5	R8	令達	果樹・野菜
果樹・野菜(県北)		(R5-14-1000)雨よけほうれんそうにおける環境制御技術の開発	R5	R7	令達	果樹・野菜
果樹・野菜(県北)		(R5-14-2000)パッドアンドファンによる局所冷却技術の開発	R6	R8	独法等委託	果樹・野菜
果樹・野菜(県北)	101	(R6-10)県北地域に適したりんごオリジナル品種等の優良品種の選抜	R6	R10	令達	果樹/果樹・野菜
果樹・野菜(県北)		(R6-10-1000)県北におけるりんご岩手系統の地域適応性把握	R6	R10	令達	果樹/果樹・野菜
果樹・野菜(県北)	102	(R6-11)県北地域に適した核果類の優良品種の選抜と省力栽培技術の確立	R6	R10	令達	果樹/果樹・野菜
果樹・野菜(県北)		(R6-11-1000)パイプハウスを活用したおうとうジョイント栽培による省力安定生産技術の開発	R6	R10	令達	果樹/果樹・野菜
果樹・野菜(県北)		(R6-11-2000)県北地域に適したもも品種および台木の選抜	R6	R10	令達	果樹/果樹・野菜
果樹・野菜(県北)	103	(R7-07)りんご優良品種の高品質安定生産技術の確立	R7	R11	県単	果樹・野菜/果樹
果樹・野菜(県北)		(R7-07-1000)「はるか」のみつ入り向上技術の確立	R7	R11	県単	果樹・野菜/果樹
【県北農業研究所作物研究室】						
作物(県北)	104	(H22-22)いわて雑穀生産・販売戦略を支援する雑穀優良種子の生産	H16	R10	令達	作物
作物(県北)	105	(H31-08)収量・品質に優れる雑穀新品種の育成	R1	R10	令達	作物
作物(県北)		(H31-08-1000)雑穀新品種・系統の育成	R1	R10	令達	作物
作物(県北)	106	(R3-6)県北地域における自動操舵農機を活用した高精度播種・機械除草技術の確立	R3	R7	令達	果樹・野菜/作物
作物(県北)		(R3-6-1000)雑穀における高精度直播栽培体系の確立	R3	R7	令達	作物
作物(県北)	107	(R6-12)雑穀ゲノム育種と安定生産技術の開発(雑穀生産性向上に向けた栽培技術の確立と遺伝資源探索)	R6	R10	国庫委託	作物
作物(県北)		(R6-12-1000)インド雑穀栽培技術の調査と導入検討	R6	R10	国庫委託	作物
作物(県北)		(R6-12-2000)インド雑穀遺伝資源の特性把握	R6	R10	国庫委託	作物

(3) 試験研究課題の要望とその措置一覧

No.	部会	部会 No.	要望機関	要望課題名	担当研究室 ○主査	措置 区分
1	農産	1	農業農村指導士協会 (県中央ブロック)	高温年における肥効調節型肥料の溶出パターンの確認	○生産環境研究部 土壌肥料研究室	B
2	農産	2	農業農村指導士協会 (県南ブロック)	水稲における省力化技術の指標の整理	○生産基盤研究部 生産システム研究室	B, C
3	農産	3	農業農村指導士協会 (県南ブロック)	ダイズフオモブシス腐敗病の防除対策の確立	○生産環境研究部 病理昆虫研究室	D
4	農産	4	全農岩手県本部 (営農支援部)	農業用バイオスティミュラントの活用による窒素肥料の低減	○生産環境研究部 土壌肥料研究室	B
5	農産	5	全農岩手県本部 (営農支援部)	水稲におけるバイオスティミュラント資材での高温対策	○生産基盤研究部 生産システム研究室 生産環境研究部 土壌肥料研究室	B
6	農産	6	全農岩手県本部 (米穀部)	高温に適応する大豆品種の開発	○生産基盤研究部 水田利用研究室	B, D
7	農産	7	農事組合法人みずほ	土壌における栽培法による微生物の多様性と量の比較	○生産環境研究部 土壌肥料研究室	D
8	園芸	1	盛岡農業改良普及センター	難防除害虫「タバコナジラミ」の薬剤抵抗性の検定	○生産環境研究部 病理昆虫研究室	B
9	園芸	2	盛岡農業改良普及センター	施設野菜栽培における外気導入装置の効果の解明	○園芸技術研究部 野菜研究室	A 1, C
10	園芸	3	二戸農業改良普及センター	りんご高密度植栽培技術の確立について	○園芸技術研究部 果樹研究室 県北農業研究所 果樹・野菜研究室	A 3, C
11	園芸	4	二戸農業改良普及センター	おうとう平棚仕立て技術の確立について	○県北農業研究所 果樹・野菜研究室	B
12	園芸	5	一関農業改良普及センター	りんどう極早生品種における株養成技術の開発および新品種の育成	○園芸技術研究部 花き研究室	B, C
13	園芸	6	八幡平農業改良普及センター 農業普及技術課農業革新支援担当	りんどう黒斑病の防除対策	○生産環境研究部 病理昆虫研究室	A 1, B
14	園芸	7	八幡平農業改良普及センター	岩手県における汚泥肥料の実用性及び安全性の評価	○生産環境研究部 土壌肥料研究室	C
15	園芸	8	農業普及技術課農業革新支援担当	猛暑に負けない葉菜類育苗技術の開発	○園芸技術研究部 野菜研究室	A 1, C
16	園芸	9	盛岡広域振興局農政部	岩手県に適したりんご高密度植栽培技術の確立	○園芸技術研究部 果樹研究室 県北農業研究所 果樹・野菜研究室	A 3, C
17	園芸	10	農産園芸課	岩手県におけるりんごの高密度省力樹形（トールスピンドル）の適性について	○園芸技術研究部 果樹研究室 県北農業研究所 果樹・野菜研究室	A 3, C
18	園芸	11	農産園芸課	りんどうにおける経営モデルの提示	○企画管理部 農業経営研空室 園芸技術研究部 花き研究室	A 1
19	園芸	12	農業普及技術課農業革新支援担当	リンドウホソハマキ防除薬剤の拡充	○生産環境研究部 病理昆虫研究室	A 1
20	園芸	13	農業農村指導士協会 (県中央ブロック)	ブロッコリー黒すす病の効果的な防除体系の確立	○生産環境研究部 病理昆虫研究室	B
21	園芸	14	農業農村指導士協会 (県中部ブロック)	トルコギキョウの安定生産に向けた連作障害の回避	○生産環境研究部 病理昆虫研究室 " 土壌肥料研究室 園芸技術研究部 花き研究室	C
22	園芸	15	農業農村指導士協会 (県中央ブロック)	バイオステミュラント資材等を活用した、花き類の夏季高温対策（開花遅延や品質低下への対策）の開発	○園芸技術研究部 花き研究室 生産環境研究部 土壌肥料研究室	A 3, B
23	園芸	16	農業農村指導士協会 (県南ブロック)	りんどうの県オリジナル品種の開発およびりんどう種子の安定した供給について	○園芸技術研究部 花き研究室	B
24	園芸	17	農業農村指導士協会 (県中部ブロック)	化学農薬に頼らないりんご紫紋羽病対策技術の開発	○生産環境研究部 病理昆虫研究室	C, D
25	園芸	18	農業農村指導士協会 (県南ブロック)	岩手県における生食用もも栽培技術の確立	○園芸技術研究部 果樹研究室	B, C
26	園芸	19	農業農村指導士協会 (県中部ブロック)	施設園芸における低コスト夜間冷房技術の開発	○園芸技術研究部 野菜研究室 " 花き研究室 県北農業研究所 果樹・野菜研究室	B, C
27	園芸	20	農業農村指導士協会 (県南ブロック)	遮光資材によるハウス昇温抑制技術の確立	○園芸技術研究部 野菜研究室 " 花き研究室	A 1, C
28	園芸	21	全農岩手県本部 (園芸部)	岩手県におけるりんご高密度植栽培の導入コスト及び生産性	○園芸技術研究部 果樹研究室 県北農業研究所 果樹・野菜研究室	A 3, C
29	畜産	1	中部農業改良普及センター	本県における夏期高温環境に対応した暖地型飼料作物の栽培体系の構築	○畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	C, D
30	畜産	2	畜産課	放牧地（牧草地）における「クレジット獲得に向けた方法論の確立	○畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室 " 外山畜産研究室	C, D
31	畜産	3	農業普及技術課農業革新支援担当	飼料用トウモロコシ中・晩生優良品種の選定	○畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	A 1
32	畜産	4	農業普及技術課農業革新支援担当	夏季高温環境に対応した寒地型イネ科牧草の草種・品種選定および栽培技術の確立	○畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	A 1
33	畜産	5	農業農村指導士協会 (県北ブロック)	飼料作物における「アレチウリ」の防除対策の検討	○畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	C, D
34	畜産※	6	農業振興課 農業普及技術課農業革新支援担当	本県における「通電性向上舗装と電気柵を組み合わせた省力型で効果の高い防護システム」導入条件の解明	○企画管理部 研究企画室 畜産研究所 外山畜産研究室	C, D

※No. 34の要望課題は園芸部会においても検討

5 共同研究等の推進

(1) 農林水産省委託プロジェクト研究事業(委託)

課題名	代表機関	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
スマート農業技術活用産地支援	農研機構(*)	R6～7	大豆・小麦の排水対策技術の導入及び活用の支援	農業経営
りんご園における自動運転スピードスプレーヤー導入による労働生産性の向上	農研機構(*)	R7～8	わい化栽培りんご園における自動運転スピードスプレーヤーに適する栽培方式の検討、SOP作成	果樹
オープンAPI等を活用したサービス事業体の機能強化	農研機構(*)	R7	データの連携・共有を行うためのAPI等の整備、接続検証及び分析・評価	野菜
先端技術を活用した施設野菜・畑作物の省力高収益栽培・出荷技術の確立	農研機構(*)	R3～7	キュウリの局所炭酸ガス施用技術の開発	野菜
省力的なIPMを実現する病害虫予報技術の開発	農研機構(*)	R4～8	発生要因の解析と予測モデルの検証(イネミズ、ドロオイ、アカスジ、アカヒゲ)	病理昆虫
病害虫発生予察の調査手法の高度化	農研機構(*)	R6～8	農研機構に気象データ、伝染源飛散データを提供するとともに気象データを活用した予察法の県内における実証を実施。	病理昆虫
農業生産に不可欠な生態系サービスの効率的な評価技術の開発	農研機構(*)	R6～9	リンゴ園場のカブリダニ類の発生状況を調査し、各樹種におけるカブリダニ類の発生状況とハダニの密度制御に関する知見を蓄積する。	病理昆虫
特定復興再生拠点区域等の円滑な営農再開に向けた技術実証	農研機構(*)	R3～7	草地における放射性セシウム吸収抑制技術の開発・実証と未除草地利用可否判断基準の策定	家畜飼養・飼料

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

(2) イノベーション、オープンイノベーション創出強化研究推進事業(委託)

課題名	代表機関	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
初冬から早春まで「いつでも直播」:春の作業ピークを平準化できる革新的稲作技術	国立大学法人岩手大学	R6～10	春の作業ピークを平準化するため、前作収穫後の初冬から早春までの間で担い手が播種時期を自由に選べる直播技術の確立を目指す。	農業経営 生産システム
疎播疎植・ペースト2段施肥による「みどりの稲作」プロジェクト	農研機構(*)	R5～8	岩手県での「銀河のしずく」の疎播疎植・高精度ペースト2段施肥体系による省力多収栽培技術を確立する。	生産システム
精緻なゲノム改良による低コスト生産可能な超多収良食味水稻品種の育成	(公財)岩手生物工学研究センター	R3～7	これまでに得られたゲノム情報と作出した育種素材を活用し、葉身形態に関する遺伝子領域を集積させた系統の個葉光合成能および乾物生産能力を明らかにするとともに、不良形質の発現を回避しながら有用形質関連遺伝子を集積する精緻なゲノム育種により迅速な品種育成と栽培特性把握を行う。	作物育種
国産タマネギの安定供給に向けた持続可能なタマネギ腐敗性病害防除技術の構築	農研機構(*)	R5～9	根切り時期が腐敗性病害の発生に及ぼす影響を明らかにする。	野菜

課題名	代表機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
リンドウの難防除病害対策を革新する新品種開発	(公財)岩手生物工学研究センター	R6～10	種子レベルで形質が固定されたCMV抵抗性エンゾリンドウ品種候補を選抜する。GkaV抵抗性・耐性リンドウ系統もしくは多重抵抗性系統の品種候補を選抜する。	花き

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

課題名	代表機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
次世代型土壌ICTによる土壌管理効果可視化API開発と適正施肥の実証	農研機構(*)	R5～7	岩手県において、土地利用変化に伴う土壌種変化を予測する人工知能AI開発のための土壌断面調査データベースの整備を行う。	土壌肥料
新たな農資源ゲットウを利用した新規抗植物ウイルス剤の創製	農研機構(*)	R5～7	トウガラシ微斑ウイルスに対する月桃資材の有効性を所内試験において評価する。	病理昆虫
越夏性に優れるライグラス新品種を用いた省力的な草地の高位安定生産技術の開発	農研機構(*)	R4～8	東北北部内陸部での採草利用の「草地メンテナンス」技術実証栽培を行うために、所内の経年採草地に、試験区を設置し、初期生育を調査する。	家畜飼養・飼料
根こぶ病抵抗性を付与した岩手県ブランドキャベツ品種「CR春さやか」のスピードブリーディング	(公財)岩手生物工学研究センター	R6～10	岩手県キャベツブランド「いわて春みどり」の主力品種である「春さやか」に根こぶ病抵抗性(CR)を付与した「CR春さやか」を早期に育成し、産地に普及することを目的とする。 加えて、汎用性の高いキャベツ育種技術の再構築を目指す。	県北果樹・野菜

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

(3) 公設試等連携可能性調査(県ふるさと振興部 10/10委託)

課題名	代表機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
イネ根圏微生物叢制御による物質循環型水稲品種開発に向けたイネ遺伝子機能解明	(公財)岩手生物工学研究センター	R7	岩手県の主要水稲品種「ひとめぼれ」にインディカ型NRT1.1B遺伝子を連続戻し交雑した系統を水田圃場で栽培し、収量性、微生物叢及び有機物分解に与える影響を明らかにする。	土壌肥料

(4) その他独法等からの委託(10/10委託)

事業・課題名	代表機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
受託研究	農研機構(*)	R5～7	高湿材適応コンバインの開発	生産システム
受託研究	農研機構(*)	H23～	ブドウの系統適応性・特性検定試験	果樹
受託研究	農研機構(*)	R6～9	岩手県のリンゴ園地における剪定技量、バイオ炭の生成量と品質、バイオ炭の圃場散布が土壌や樹体に及ぼす影響の試料およびデータの収集	果樹、土壌肥料
受託研究	農研機構(*)	R5～7	カラムナータイプリンゴ品種の育成	果樹
受託研究	農研機構(*)	R5～7	加工歩留まりの高いF1タマネギ品種の開発	野菜

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

事業・課題名	代表機関	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
受託研究	農研機構(*)	R7～9	政策ニーズに対応した革新的新品種開発 (高温条件下で安定生産が可能なイチゴの開発)	南部園芸
受託研究	農研機構(*)	R5～7	病害抵抗性いちご品種候補の開発	南部園芸
受託研究	東北農政局	H27～8	農地管理実態調査 ・定点調査:水田4、普通畑11、草地9 ・基準点調査:水田、普通畑	土壌肥料
受託研究	東北農政局	R6～9	地力調査 ・定点調査:水田4、普通畑11、草地9 ・基準点調査:水田、普通畑	土壌肥料
受託研究	農研機構(*)	R7～R9	政策ニーズに対応した革新的新品種の開発 (多収大豆品種等の普及促進に向けた土づくりを核とした土壌病害診断を導入した環境保全型大豆栽培技術実証)	病理昆虫研究室
受託研究	国立大学法人岩手大学	R6～7	「いわて畜産テリトリー」の実現に向けた循環型粗飼料生産・活用システムの開発	家畜飼養・飼料 外山畜産
受託研究	(公財)岩手生物工学 研究センター	R6～10	雑穀ゲノム育種と安定生産技術の開発(雑穀生産性向上に向けた栽培技術確立と遺伝資源探索)	県北作物

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

(5) 民間委託試験 (10/10委託)

事業名・課題名	相手方	研 究 の 内 容	担当研究室
醸造用ぶどう品種「ピノ・ノワール」の根域制限ハウス栽培における高品質果実生産の実証	SORA株式会社	高い酒質のワイン原料の生産を実証する	果樹
ホップ生産における病虫害防除に関する試験	ビール酒造組合	ホップ病虫害の発生生態解明およびその防除技術の確立	病理昆虫
台木カボチャのホモプシス根腐病耐病性の評価	タキイ種苗株式会社	キュウリの接ぎ木苗をホモプシス根腐病汚染圃場に作付けし、耐病性を評価する。	病理昆虫
飼料作物等高能力新品種選定調査事業	(一社)日本草地畜産種子協会	オーチャードグラス新品種の比較試験の実施	家畜飼養・飼料
和牛ゲノムデータ駆動型未診断疾患解明事業	国立大学法人 琉球大学 (JRA事業)	和牛の未解明な疾患についてゲノムデータと臨床データから遺伝子を特定し、淘汰や交配に活用する手法の開発	家畜育種
岩手県獣医師会調査研究助成事業	(一社)岩手県獣医師会	黒毛和種における体内胚採取後の早期受胎のための定時授精法の検討	家畜育種
農薬及び植物調節剤等の効果検定試験	(一社)岩手県植物防疫協会	農薬及び植物調節剤等の効果判定	病理昆虫、土壌肥料、水田利用、果樹、野菜、県北作物、県北果樹野菜、家畜飼養・飼料
肥料の効果等に関する試験	岩手県施肥合理化協議会	(対象作物) 水稻、キャベツ、りんご、ほうれんそう、ピーマン	生産システム、果樹、野菜、土壌肥料

(6) (公財)岩手生物工学研究センターとの共同研究

研究課題名	生工研担当	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
イネ高度耐冷性メカニズムの解明	ゲノム育種研究部 (他、岩手大学)	R6～10	高度耐冷性を持つ水稻系統「奥羽PL5」と「ひとめぼれ」などとの交雑後代を用いて、耐冷性に関わる形質を調査し、ゲノム配列情報と合わせて解析することで、高度耐冷性の責任遺伝子を同定する。形質と遺伝子機能の解明により、高度耐冷性メカニズムを解明する。	作物育種
イネ穂ばらみ期高度耐冷性に関わる生理機能および遺伝子領域の特定	ゲノム育種研究部 (他、岩手大学、古川農業試験場)	R6～10	耐冷性の強化のための基礎的な知見を得るため、イネ穂ばらみ期高度耐冷性に関わる生理機能および遺伝子領域の特定を受精に関わる構成要素という視点から体系的に評価する。	作物育種
重イオンビーム照射によるブルーベリー変異体獲得に関する研究 ※大和造園土木株式会社との3者契約	生物資源研究部	R5～10	ブルーベリーへの重粒子線照射を行って、生物影響と突然変異誘起率の検討を行う。至適条件を決定後、有用変異系統の作出を試みる。	果樹
雑穀ゲノム育種技術と安定生産技術の確立	ゲノム育種研究部	R6～10	大規模組換え近交系(RILs)の作出とゲノム情報取得、アワいもち病抵抗性遺伝子の同定及び機能性成分ルテイン含有量に関する遺伝子の同定を行う。	県北作物

(7) 他の公設試との共同研究

課 題 名 等	相手方	研究期間	担当研究室
ワイン専用ぶどう新系統の醸造特性評価	工業技術センター	H6～	果樹

(8) FAMS(動物医学食品安全教育研究センター)

開催月日	場 所	内 容
R7.9.29	岩手大学	スマート畜産の現状と展望

(9) その他共同研究

課題名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
生物遺伝資源交換に関する研究協定	農研機構(*)	H14～	植物、動物、微生物の生物遺伝資源及びDNAの相互交換	センター全体
農研機構の水稻有望系統を交配母本とした水稻品種・系統の共同育成(岩手県)	農研機構(*)	R7	農研機構で開発した水稻有望系統を交配母本として用い、岩手県での安定栽培に適した良食味で多収の業務用水稻品種を共同で育成する。	作物育種
水稻いもち病圃場抵抗性検定の東北地域向け基準品種の追加策定	農研機構 (*)、青森県産業技術研究センター農林総合研究所(**)、宮城県古川農業試験場、秋田県農業試験場、山形県、福島県	R3～7	いもち病真性抵抗性遺伝子型が「 <i>Pii</i> 、 <i>Pik</i> 」「 <i>Pib</i> 」等の品種・系統の葉・穂いもち圃場抵抗性検定を行い、発病程度を評価する。各機関で得られたいもち病発病程度のデータを集約し、抵抗性程度の強弱を推定して、基準品種の候補となる品種・系統を選定する。	作物育種

課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
水稻供試材料の耐冷性強化のための基礎研究	岩手大学	R6～10	イネの高度耐冷性に関わる生理生態的なメカニズムの解明と関与遺伝子領域を同定することを目的に、水稻供試材料の耐冷性を評価、調査する。	作物育種
寒冷地向けイチゴ品種の育成に関する研究	農研機構(*)、宮城県農業・園芸総合研究所	R元～8	岩手県および宮城県における地域適応性等に基づく系統選抜を実施し、寒冷地において安定生産を可能とするイチゴ品種の育成を推進する。	南部園芸
和牛における経済形質のゲノム選抜手法の確立	独立行政法人 家畜改良センター	R7	牛DNAサンプルと形質情報の収集、肥育牛、種雄牛、繁殖雌牛等のゲノムワイドなSNP情報の解析、ゲノム育種価予測式の作成と予測式の精度の検証	家畜育種

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

** 地方独立行政法人

(10) 産学官連携

名 称	開催年月	場 所	内 容	担当研究室
第1回 いわて産学連携推進協議会会議	R7.6.13	盛岡市 (岩手大学)	令和6年度活動報告および令和7年度事業計画について	研究企画室
第2回 いわて産学連携推進協議会会議	R8.3.17	盛岡市 (岩手大学)	リエゾン-Iの解散について	研究企画室
リエゾンIマッチングフェア	R7.11.12	オンライン (対応無し)	最近の研究シーズのプレゼンテーション	研究企画室

6 現地試験の実施

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
水稻奨励品種決定現地調査 (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳)	雫石町 紫波町 岩手町 花巻市 西和賀町 奥州市 平泉町 陸前高田市 遠野市 山田町 洋野町 二戸市	長山 大巻 土川 鍋倉 沢内前郷 江刺稲瀬 平泉 横田町 上郷町 豊間根 種市 野々上	生産基盤研究部 水田利用
麦類奨励品種決定調査(現地調査)	一関市 矢巾町	舞川 煙山	
大豆奨励品種決定調査(現地調査)	奥州市 盛岡市	江刺田原 玉山	
	盛岡市	玉山	
【イノベーション創出強化研究推進事業】水稻の疎播疎植・高精度2段施肥による省力多収栽培技術の開発・実証にかかる現地実証圃	八幡平市	松尾野田	生産基盤研究部 生産システム
【イノベーション創出強化研究推進事業】精緻なゲノム改良による低コスト生産可能な超多収良食味水稻品種の育成にかかる現地実証圃	奥州市	江刺稲瀬	生産基盤研究部 作物育種
	奥州市	江刺愛宕	
りんご育種系統の現地適応性試験	二戸市 宮古市 滝沢市 盛岡市 奥州市 一関市	金田一 内の沢 元村 黒川 江刺米里 舞川	園芸技術研究部 果樹
自動運転スピードスプレーヤの現地実証	紫波町 奥州市	長岡 江刺愛宕	
ぶどう「アルモノワール」の安定生産技術の現地実証	陸前高田市	米崎町	
ブルーベリー簡易剪定法の現地実証	軽米町	観音林	

内 容（試験研究課題名）	市町村名	地 区 名	担 当（関係研究室）
「施設栽培における効率的な炭酸ガス施用技術の開発」 （キュウリの炭酸ガス局所施用技術の開発）	福島県南相馬市	小高	園芸技術研究部 野菜
「施設栽培における効率的な炭酸ガス施用技術の開発」 （トマトの夏秋作型における出荷予測ツールの開発）	北上市	二子	園芸技術研究部 野菜
りんどう奨励品種決定調査（現地調査）	雫石町 岩手町 花巻市 西和賀町 奥州市 一関市 一関市 洋野町 一戸町 二戸市	小日谷地、西 安庭(2カ所) 川口 石鳥谷 沢内 衣川(2カ所) 弥栄 厳美 大野 小友 仁左平	園芸技術研究部 花き
「岩手県南部における耐倒伏性の強い小麦の品種特性を生かした 多収肥培管理技術の確立」	一関市	舞川	生産環境研究部 土壌肥料
「革新的な土壌データの取得方法及びデータ高付加価値化手法の 開発」	八幡平市	西根	
新農薬の効果試験と防除指針作成 リンドウ褐斑病、リンドウ黒斑病	八幡平市	安代	生産環境研究部 病理昆虫
省力的IPMを実現する病害虫予報技術の開発 （現地試験）	盛岡市	好摩	
殺虫剤だけに頼らない斑点米カメムシ総合防除体系の検討 （現地試験）	奥州市	江刺	
農薬だけに頼らない施設きゅうり害虫の総合防除技術の確立 （現地試験）	盛岡市	太田	
キャベツ黒斑病体系防除試験 （現地試験）	岩手町	沼宮内	(八幡平農業改良普及 センター岩手町駐在)
りんご褐斑病を中心とした春季の防除体系の再検討 （現地試験）	盛岡市	東中野	
新農薬の効果試験と防除指針作成 トマト トマトキバガ	紫波町	城山	
りんご園地における下草管理とカブリダニ類等土着天敵の関係 （現地調査）	①花巻市 ②矢巾町 ③奥州市 ④一関市	①東和、北滝 田(2カ所) ②煙山 ③愛宕、稲 瀬、伊手 ④藤の沢	

内 容（試験研究課題名）	市町村名	地 区 名	担 当（関係研究室）
多年生ライグラス類を利用した追播技術の確立	滝沢市	鵜飼姥屋敷	畜産研究所 家畜飼養・飼料
乾乳期における放し飼いの普及に向けた管理体系の確立	①盛岡市 ②滝沢市 ③一戸市 ④金ケ崎町 ⑤西和賀町 ⑥岩泉町	①好摩 ②花平 ③奥中山 ④和光 ⑤湯田 ⑥上有芸	畜産研究所 家畜飼養・飼料
パークシャー種豚群の産肉能力調査	岩泉町	有芸	畜産研究所 家畜育種
地域資源を活用した南部かしわの鶏肉の高付加価値化技術の確立	西和賀町	沢内	畜産研究所 家畜育種
黒毛和種における体内胚採取後の早期受胎のための定時授精法の開発	遠野市	土淵	畜産研究所 家畜育種
AIとドローンを活用した放牧牛看視システム開発のための要因分析	洋野町	大野	畜産研究所 外山畜産
黒毛和種産肉能力検定（間接法・現場後代検定法）	①滝沢市 ②奥州市 ③一関市 ④紫波町 ⑤北上市 ⑥盛岡市 ⑦一戸町 ⑧花巻市	①上岩手山 ②江刺、胆沢 ③藤沢、花泉 ④片寄 ⑤和賀、上江 釣子 ⑥下田 ⑦中山 ⑧東和町	畜産研究所 種山畜産
キャベツ根こぶ病発生圃場での休眠孢子密度低減効果の確認	岩手町	川口	県北農業研究所 果樹・野菜
ジョイント栽培の現地適応性および省力効果等の確認	二戸市	石切所	
りんご品種「はるか」のみつ入り要因の解明	二戸市	釜沢 米沢	
大豆等奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査（リョウユウ）	軽米町	上舘	県北農業研究所 作物